2007年（平成19）12月

カルメル
霊性センターニュース

227号

「キリスト教の核」

中川 博道(カルメル会司祭)

「これは、あなた方のために与えられる私の体である。
わたしの記念としてこのように 行いなさい」(ルカ 20. 19)

ここ数年、カルメル会内の国際会議に幾度か参加する機会に恵まれながら考え続けていたことは、“様々な相違を抱えている人々の交わりの中で、これだけは無条件で一致できること”とは何だろうと言うことでした。その問いは、カトリック教会で 40 年余り探しつづけてきたことと同じで、“キリスト教世界において、無条件で中心といえる単純なメッセージとは何か？”と言うことと同じでした。

キリスト教の世界は現在、途方もなく広範で複雑な世界の様に見えてきます。聖書研究、教会史、その神学、哲学、芸術、政治と組織、その様々な活動は、霊性や精神性の内面世界から始まって、国家、社会、地球、ひいては宇宙的な視野へと広がり、多岐に亘って人間世界にかかわりつづけるものです。しかも、それぞれの世界はその中に深い入りすると出てくるのが不可能と思われるほどの奥行きをもっています。

ある時、何十カ国もの人々と集っていた会議の中で自分の中に浮き出てきたことは、たとえどのような違いを抱えているとしても、私たちはミサにおいて、「皆、これをとって食べなさい。」「皆、これを受けて飲みなさい。」と呼びかけられるお方においてだけ、無条件でひとつになれるという気づきでした。

「食べる事」と「飲むこと」。ここには、生きることを支える基本があります。“食べられるもの”の宿命は、食べる者の中で、噛み砕かれ、すりつぶされて自分の姿を失い、命を奪われながら命を奪うものに自らを糧として与え、その存在を生かしつづけることにあります。

キリストのメッセージのすべてはこの中に集約されています。イエスは最期の時に、「これを私の記念として行いなさい」と、世の終わりまでご自分の私たちに対するかかわりを見える形で残そうとされました。いつもいつもご自分が死にながら私たちに命を与えつづけてくださるかかわりを、私たちは神の真実と信じ受け入れました。余りに単純なしかし決定的な信仰の神秘です。

イエスの私たちへのこのかかわりを、自分たちの存在の根底で受け止め、自分がキリストから絶対的に受容されていることを信じ、受け止めなおして人生に派遣されていくことに、“キリスト教の核”があると思います。そして、教会の一切のことはこの土台の上に成り立っているのです。

今年もまた今日も今も、イエスは食べられるものになるために人となって降りて来られます。クリスマス（キリストのミサ）を心から祝えるように、日常の根底に響く「私を食べなさい」「私を飲みなさい」と言うイエスの呼びかけに聴き入りながら待降節を歩みたいと思います。

霊性センターニュースの読者の皆さん、よいご降誕祭をお迎えください。

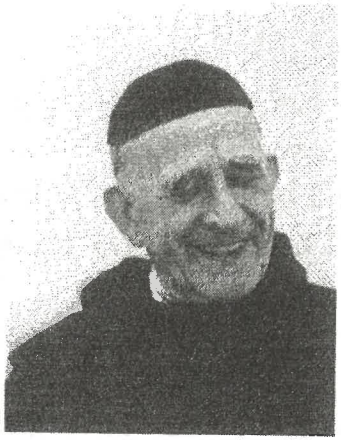
心の泉

心の泉

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父　ocd

――現代の十字架の聖ヨハネ――

帰天４０周年にあたって　（１２）



魂の深みで

わたしは

十字架の聖ヨハネとともに

生きている

―幼きイエスのマリー・エウジェンヌ　ocd

「十字架の聖ヨハネについていわれている言葉をそのままマリー・エウジェンヌ神父に、置き換えられる・・・彼の言葉は人々を生き返らせる実り豊かなものでした。常に神の愛に燃えている言葉でした。それは人々を燃え上がらせ、神へと導くのでした。」『仏カルメル誌』

マリー・エウジェンヌ神父は、神との出会いに必要な闇の中で輝く信仰を十字架の聖ヨハネから得ていました。それ故にこそ、この「信仰のまなざし」、神の愛を引き付ける「単純なまなざし」について師はうむことなく教えました。この単純なまなざしは、十字架の聖ヨハネの生涯を絶え間ない離脱と暗夜のうちに愛へと導いていきました。

マリー・エウジェンヌ神父は死の数ヶ月前、「魂の深みで、わたしは十字架の聖ヨハネとともに生きている」と言っていました。十字架の聖ヨハネの澄んだまなざしは、神だけしか目指さず、神ご自身しか望みません。たとえ、それが闇に包まれていても、むしろ闇に包まれているがゆえに、彼の信仰はこの闇の中で新たに浄化されるのです。12 月 14 日十字架の聖ヨハネの祝日にあたり師の次の言葉を思い起こしましょう：「十字架の聖ヨハネに願いましょう：彼の後を慕ってわたしたちが歩み、わたしたちがまなざしを浄めるよう教えてもらいましょう。おそらくごく簡単にできることなのでしょう。わたしたちは度々、助けになるものを妨げとみなしてそこに留まってしまいます（自分の弱さ、貧しさ、みじめさとか、聖なるものでないとかーー少なくとも自分で思い込んでいる聖性に照らしてみて。このようなことすべて、実はわたしたちの信仰を浄める手段なのです。」

伊従　信子
ノートルダム・ド・ヴィ

『必要なことは、ただ一つだけ』(30)

ルドルフ・デ・スーザ　OCD（カルメル会）

他の無数の感覚（続き）

それゆえイエスは、「すべて外から人の体に入るものは、人を汚すことができないことが分からないのか。それは人の心の中に入るのではない、…　人から出てくるものこそ、人を汚す」（マコ７：17～20）と言うのです。創造されたすべてのものは、神の現存によって浸透されています。ですから、この生を愛し、食べ物を楽しみ、神を風味として私たちの中へ迎え入れましょう。音楽を聴き、その中にひたり、神を音やハーモニーとして私たちの中へ迎え入れましょう。神を無理矢理捉えようとせず、神を私たちの方へゆっくりくだらせましょう。木々や鳥や雨や太陽や砂に、可能な限り自分を開きましょう。私たちが見、触れ、味わうすべてのものに自分自身を開きましょう。その時、感謝の心が湧き上がってくるでしょう。湧き上がってくるこの感謝の心がだれに対してなのか分からない時、私たちはこの感謝が神に向かっていることを知らなくてはなりません。なぜなら「神はすべてのものを眺められた。それによって、それらに自然的存在と多くの自然的賜物を与えられ、彼らを仕上げて完全なものとなさった…」（『霊の賛歌』5, 4）からです。

統合感覚と祈り

それゆえ、上記の感覚の味わいというものが、どうした時に役立ち、どのような時にそうでないかを見分けるための一つの注意書きをここに添えておきたい。すなわち、音楽やその他のものを聞いたり、気持ちの良いものを見たり、快い香りをかいだり、舌を楽しませたり、触れることに微妙な味わいを覚えたりする時、いつも、直ちにその第一衝動において思いや意志の動きを神に向け、そこに生ずる感覚的な刺激よりもそのような思いの方を喜び、そのためにだけ、そのような楽しみを味わうならば、上記のことから益を引き出している印であり、感覚的なものが霊を助けることになるのである。こうした形でそうしたものを利用することができるわけである。なぜならその時には、感覚的なものを作りかつ与えた神にそれを奉仕させることになり、神はそのようにしていっそう愛され、知られることになるからである（『カルメル山登攀』III, 24, v）。

五つの外的感覚は統合されると、集中力と祈りのために途方もないエネルギー

を提供してくれます。祈るために、集中力は助けとなります。各感覚の分析の終わりに、簡単な訓練を一つ二つ挙げました。味覚には舌の知覚、触覚には身体の知覚、視覚にはまぶたの知覚、嗅覚には呼吸の知覚、聴覚には音の知覚。

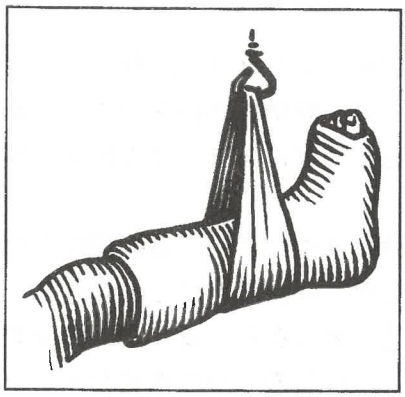
簡単についていける訓練から始めましょう。たとえば、舌を知覚する訓練を始めるならば、徐々にこの知覚を、まぶたを通して入ってくるぼんやりした明かりを見つめながら、まぶたへの知覚へと拡張します。同時に、舌との接触を続けます。これらの二つの感覚をリラックスさせたなら、静かに呼吸の知覚へと進みます。鼻孔、鼻、喉、そして最後に肺とさまざまな感覚を味わいます。これを、舌やまぶたとの接触を失わずに行なうことは、簡単ではないかもしれません。しかし徐々にこれら三つの感覚を同時に意識することができるようになります。それから、まわりの音に注意を向けるように試みます。けれどもその場合も常にそれまでの知覚の体験を保持しながら行ないます。最後に、身体全体を意識するようにします。頭のてっぺんから始め、額、目、唇、首、肩、腕、指、背中、腿、くるぶし、かかとなどを意識します。そうしながら、呼吸、まぶた、舌、聴覚の知覚とも接触し続けます。このように意識することを訓練するならば、或る瞬間、身体のすべての感覚を完全に知覚するようになります。すべての感覚が、集中力による統合の体験をします。徐々に私たちは、静寂の段階に達し、祈りにとって快適な状態の中に完全に入ります。この知覚の訓練は、一回坐るだけでは、達成されません。まず最初に、各感覚器官の感覚に意識を向けるよう訓練する必要があります。一定期間の後、自ずと、瞑想や祈りに対し統合的なアプローチをするようになっているのに気づくでしょう。この段階で、身体の知覚を祈りとみなしてはいけません。祈りは、単なる身体の知覚の訓練よりずっと豊かな体験だからです。

私たちの大きな思い違いは、感覚世界が現実世界であると考えることです。ところが、それが現実全体からの抽象以上のものでないということは、明らかです。けれども、本当のことを言えば、私たちの感覚を通して省察された現実の一部は、全体の断片に過ぎないのです。感覚の範囲が顕微鏡によってどれほど拡大されようとも、それは現実の一側面以上のものにはなり得ないのです。私たちが自分の存在は身体と感覚にすぎないと信ずるならば、生涯にわたって苦しみを自分の上に招くことになります。しわや脱毛や目が弱くなること、身体のあらゆる変化は、私たちの執着の度合いに比例して、苦しみの感覚を作り出します。

（続く）

九里（くのり）　彰訳

ヘンリ・ナーウェンの『旅路の糧』(105)



貧しい人々の教会となること

私たちが自分自身の貧しさを引き受け、それを兄弟姉妹の貧しさと結びつける時、私たちは貧しい者の教会、すなわちイエスの教会となります。連帯は、貧しい者の教会にとって本質的です。苦しみも喜びもともに分かち合わなくてはなりません。一つの体として、私たちは他者の踊り上がるような喜びばかりでなく、耐えがたい苦悶をも深く体験するのです。パウロが言っているように、「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれれば、すべての部分が共に喜ぶのです」(1コリ 12：26)。

しばしば私たちは体の部分でないことを望みます。なぜならこの参与は他者の苦しみを非常にひしひしと感じさせるからです。私たちが他者を深く愛する時はいつでも、彼らの苦しみも深く感じます。しかしながら、喜びはこの苦しみの中に隠されているのです。私たちが苦しみを分かち合うならば、喜びをも分かち合うことでしょう。

(1103)

貧しさの内に一緒になること

貧しさには多くの形があります。経済的な貧しさ、身体的な貧しさ、情緒的な貧しさ、精神的な貧しさ、霊的な貧しさなどです。私たちが主に他者の富や健康や安定や知性や力などに関わっている限り、真の共同体を築き上げることはできません。共同体とは、私たちが自分の総合的な才能で世界を驚嘆させるタレントショーではありません。共同体とは、私たちの貧しさが認められ、受け入れられる場であって、できる限り上手に他者と競い合うことを学ぶ所ではなく、新しい生活の真の源泉なのです。

生き生きした共同体は、どんな形態であれ、すなわち家庭、小教区、相互援助共同体、国際的共同体であれ、私たちが貧しさの内に一緒になるように、私たちにチャレンジしています。その貧しさの場にこそ、私たちの豊かさが輝き出ると信じながら。

(0318)

九里(くのり)　彰訳

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　みことばのひびき　＊＊＊

待降節第１主日（Ａ）

「目を覚ましていなさい。」　（マタイ２４：３７～４４）

今日私たちは待降節を迎え、教会の暦の新年の到来を告げます。待降節は、私たちがクリスマスのときに、また人生の終わりのときに主と出会うための準備をする恵みの季節です。アドベント（待降節）という言葉そのものは来臨、すなわちイエスが歴史、神秘、主権の中に来てくださることを意味します。クリスマスであっても、あるいは人生のうちのいつの日であっても、私たちの死のときであっても、世界の終わりのときであっても、どの来臨のことを言うにしても、イエスのメッセージは、はっきりしたいつという時を知るというよりはむしろ、私たちがいつも用心して目を覚まし、準備していることのほうが大切だということを伝えています。

このメッセージをはっきりさせるために、イエスは三つの物語を示しています。第一はノアの物語です。イエスの来臨は、ノアの時代に起こったことと三つの理由で対比することができます。すなわち、(a)両方の出来事は突然やって来ること、(b)ほんの少数の人しか準備していないこと、(c)ほとんどの人たちはこの世のことに心を奪われていること、です。彼らは神を考えに入れていませんでした。イエスの第二の物語りは労働者のたとえ話です。男は畑仕事をし、女は粉を作っています。皆が忙しく働いています。これは立派なことです、しかしどの場合も二人のうちの一人はあまりに忙しくて神の言葉を心に留めることがありません。イエスの三番目の物語りは、神を盗人に譬える変わった譬喩を使っています。

地上の人々に一番有効な話の訓練をしている三人の若い悪魔についての古い寓話があります。一人は、「私は彼らに神はいないと話そう」と言います。他の悪魔たちは、神を信じている人がもうすでにたくさんいるからだめだと言います。二番目の悪魔は、「地獄はないと話そう」と言いました。これも又、長年の伝統だからだめだと言われました。三番目の悪魔は、「何も急ぐ必要はないと言おう」と言いました。寓話では、これがそれ以来ずっと悪魔たちが使って大成功をおさめていることだと語っています。

結局、私たちはこの世界から生きては出られないということを思い出し、私たちが待っているのは神であり、私たちが目覚めていなければならないのは希望をもたらす喜びに対してであるべきだということに気づくならば、本当の安心はやってくるのです。誰一人世界の終わりから遠くに生きている人はませんが、私たちの信仰は未来への希望を与えてくれます。

(Sr. Paulina)

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　みことばのひびき　＊＊＊

待降節第二主日Ａ　ﾏﾀｲ 3, 1-12

「悔い改めよ。天の国は近づいた」(ﾏﾀｲ 3, 2)。

イエスの先駆者、ヨハネが勧めたのは、彼にならった荒れ野での「厳しい苦行の生活」ではなく、「悔い改め」でした。さて、「悔い改め」、この言葉をどのように理解していますか。安楽に生きてきた生活スタイルを、厳しい、苦行のようなものに変えることでしょうか。わたしたちの良心の中に刻まれた道徳の勧めや規律から逸脱した生活をしていたことに気付き、その良心にそって生きるように生活を改めることでしょうか。しかし、ヨハネから悔い改めに招かれている人々の中で、名指しで指摘されているのが、犯罪人、徴税人、公の罪の女、あるいは、略奪や乱暴を傍若無人に働いているローマの兵隊でもなく、義人だ、神の掟を良心的に守っていると自他共に認めているファイリサイ派やサドカイ派の人々であったことは、真実な悔い改めへの招きが、どこに向けられているか、また、悔い改めに相応しい実とは何かを示唆しているようです。真実な悔い改めは、より一層熱心に、より一層厳密に神の掟、道徳規範を守って生きることへの単純な決断ではないようなのです。

福音に誠実に生きる努力した多くの人たちが、気付かされたことの一つは、掟を遵守する善意、努力が、わたしたちを二つの合い異なる心の態度に導くことでした。善意、努力、掟の遵守が、その人を自己中主義の展望から解放し、ますます、小さいものをも憐れむ神の広い心に似たものとしてゆくのか、あるいは、掟の遵守の成功が、小さい人たちを蔑み、自分一人を善良なものと自負する高慢に、神の愛とは相容れないものに導いてしまうのか。神の御旨を誠実に生きる努力が、悪いのではありません。神の愛に導くほどの良いものをも、神の慈しみとはまったく逆のもの、掟を守れる自分をえらいものだと自負させる、守れない人たちを見下し軽蔑する高慢な心の態度にまでも変質させてしまう、このわたしたち人間の傾向、根底にまで染み付いた傾きが、悪いのです。ここに、わたしたちがどれほど罪深いものであるかが、見えてくると言わなければなりません。これほどまでに罪に浸透されているわたしたちの現実を、謙虚に認め、告白し、罪を根源から赦し、新しく生き始めさせることのできる方を待望する。「わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。・・・だれがわたしたちを救ってくれるのでしょうか。わたしたちの主イエス・キリストを通して神に感謝いたします」(参照ﾛｰﾏ 7, 24-25)。ここに真実な悔い改めが始まるのです。　　ルカ　渡辺幹夫

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　みことばのひびき　＊＊＊

待降節第３主日（Ａ）

「ガリラヤの牢屋からの声」

（マタイ１１：２～１１）

特に力強く心を打つのはヨハネの姿です。ヨハネは待降節での待望の的の第二の人物です。ヨハネは私たちにとって、宣言された希望と変革された希望の象徴です。今日、信仰に対する大きな挑戦は、教会と世界に、新たにされた世界のヴィジョンを、自分たちの努力の結果を見ることなく、与えることにあります。ヨハネについて考えると、こども達の未来、生命を与えた両親たちが見ることのない未来を、幼児の洗礼のとき愛と期待に満ち溢れて、幼児を抱いて分かち合っている両親のことを思います。ヨハネと共に彼らは道を準備しますが、この道を開くことはしばしば彼らの期待とは大きく異なっています。不確かな未来に直面している現在に、イエスは「女から生まれた者のうち、洗礼者ヨハネよりも偉大な者は現れなかった。しかし、天の国の最も小さいものでもヨハネより偉大である」（マタイ１１：１１）と語ります。

マタイが生きた社会の心や、今日の私たちの教会の心は「小さいもの」です。柔らかい着物を着て、王宮に住んでいる権力を持つ者ではありません。貧しく、悲しむ者であり、正義に飢えかわく者です。たびたび「信仰がうすく」、何を食べるか何を着るかを思い悩み、「まず、神の国とそのみ旨を行なう生活を求めなさい。そうすれば、これらののものも皆、加えてあなたがたに与えられるであろう」（マタイ６－３３）というイエスの言葉を聞くことができません。波に飲み込まれそうになったペトロのように、「主よ、助けてください。沈みそうです」（マタイ８：２５）と叫びます。しかし、このからし種のような小さな信仰は山に向かって動くように命じることができますし、「あなた方に出来ないことは何もない」（マタイ１７：２０）のです。

待降節は、私たちに小さく、揺れ動く信仰であっても、大きな希望を抱き、私たちが見ることのない未来に向かって花開くことが出来る種を、ヨハネのように植えることができることを思い出させてくれます。今日両親や教師、正義や平和のために働いている人々、神の言葉を生き語っている司祭や宗教家たちは、世界の癒しのために祈っている病の重荷を持つ人々と共に、全ての人がキリストの前に来て道を整える者です。未来のために準備し、信仰を持って生き、希望のうちに死ぬ者はヨハネの叫ぶ声です。神の王国でもっとも小さな私たちは実現すべき使命を持っています。　　(Sr. Paulina)

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　みことばのひびき　＊＊＊

待降節第４主日　ﾏﾀｲ 1, 18-24

「マリアは男の子を生む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである」（ﾏﾀｲ 1, 21）。

確かに、神の御子の人間としての誕生は、歴史の中で実現しました。この誕生は、神の発意にのみよること、人間の誰も思いつくことも、ましてや神に強要することはできないこと。そして、神の全能の憐れみが一度決めたら、どんな力も、それを妨害することはできないものでした。しかし、マリアのうちに成就される聖霊による神の御子の懐妊、誕生は、人間の経験、知識には理解できない秘儀を前にする青年ヨセフの躊躇、煩悶、恐れの痛み、また、それらを乗り越える決断なしに成就したのではありません。救いは、無償の恵みとして神から受け取るほかはないものであるのに、人間の自由意志の決断、心を尽くし、魂を尽くして積極的に答える生き方を求めてくる。青年ヨセフは、この厳しい要求の前に立たされました。

ヨセフの夢の中でのお告げを信じ、自由な決断でマリアを家に迎え入れなかったとしても、同じように神の御子の人の子となることは、おこったのでしょうか。すべての人を罪から解放する救い主は、ヨセフの自由な意志の決断、人間の高貴さを無視し、踏みつけるようにして誕生することになったのでしょうか。これは、ありえないことだと断言できます。なぜなら、自分の計画実現のために、自己中心的に他の人たちを道具、機械化し、搾取するところに罪の顕現があります。その罪から人間を解放する、ここに神の救いはあります。神は、御自分だけが発意し、成就できる愛の救いの計画に、救われるべき人間が愛と自由の決断の応答で参加する道を開かれているのです。このような参加の道を神は恵みとして開いてゆかれる。マリアも、ヨセフも、この開かれた道に、全身全霊をかけて進んでいったのです。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」

約二千年前に、神の御子のマリアからの誕生は起こった、青年ヨセフの神の計画に自分をゆだねる痛みを伴って。今日もまた、神のみ子は救いをもたらしつつ、わたしたちの内に、また、世界の内に誕生される、それは、わたしの信仰の決断とは無関係に起こるものではないのです。クリスマス、それは、わたしたちに神の救いの道に決然と入る招き、改心の時なのです。ルカ　渡辺幹夫

聖　家　族　の　祝　日　(A)

“信仰深い、神に忠実な家族”　（マタイ２－13~15、19~23）

家族は、互いの幸せを願う思いが絡み合う愛情の中心です。家族の中で人間同志の関わり方の基礎ができ、その上に信仰や道徳が育まれます。心理学者たちは、“大人になって性格的に問題のある人の多くは、子どもの頃に過ごした家族に原因がある”といっています。家族は人間の人格形成とその成長に中心的な役割を果しています。家族は人間がキリスト教的な徳を身につけ豊たかに成長していくために最もふさわしい土壌を提供しています。

幸せな家族の中で、両親と子どもたちは各々の役割を果たしながらお互いの必要を満たします。両親は彼らのことばと行いの一つひとつが、その子どもたちの性格に織り込まれていく糸であることを認識する必要があります。現代の親たちのある者はこの様なことはないと言っていますが、本当に、一人の父親が子どもたちに語ったことは子どもたちが初めて聞くことなのです。又一人の母親がゆり篭の傍らで歌った子守歌は子どもたちの一生を通じて響いていきます。

子どもを育てることが易しいことであるとは誰も言いません。子育てには苦労が伴います。ヨゼフとマリアは神のご命令に従ってエジプトに逃れなければならなかった時に同様の苦労に耐えました。（マタイ２－１４）　事実、ヨゼフとマリアは貧しい両親としての凡ゆる心配と不安に苦しみました。しかしヨゼフとマリアの、神のご意志に従っているという確信と神のみ旨に全てを委ねる信仰は、旅する聖家族を支えました。同様にキリスト者の両親が家庭生活の全てを神に委ねるなら、神の恵みによって子育ての苦労は自主的によろこんで、楽しくすらすることが出来るのです。

真にキリスト的なキリスト者の家族は直接の血縁関係にあるとは限りません。それは神との交わりのうちに生きている全ての神の子どもたちの家族です。広く考えるならば、キリストの家族は聖人たちの親しい霊的な交わりです。神に結ばれている人々は皆神秘的に繋がっており、各自の日々の祈りや善行の功徳は世界レベルの神の子どもたちの家族の中で小波のように波及していきます。それは神との交わりのうちにあるわたしたちと全ての人々を、生きている人々とこの世を去った人々の両者を、変えていき、全ての人々の永遠の生命との関わりに影響を与えていきます。

(Sr. Paulina)

十字架の聖ヨハネ　こぼれ話（9）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

小魚（1）

聖テレジアは、水に対する愛、愛好で非常に有名です。彼女自身、祈りやたくさんの霊的な事柄について説明するため、水のたとえを絶えず使用しています。その著作『霊魂の城』では、

> 「私は、霊的な或る種の事柄を説明するために、この水のたとえ以上にぴったりしたものを見つけることができません。なにぶんにも無学な者ですし、智恵は何も助けてくれませんし、それに水が大好きで、他のものよりよく注意して観察しましたから。もちろん、あれほど偉大で英知に満ちておいでになる神のお造りになったものは、すべて、私どもがそこから利益を引き出すことのできるような深い神秘を蔵しているにちがいなく、それを悟っている人たちは、それらから利益を得るでしょう。とはいえ、神のお造りになった、いちばん小さいものの一つ一つは、――たかが一匹のありにしても――私どもの悟りえる以上のものを秘めていると私は思います」（4M2,2）。

十字架の聖ヨハネの場合、水への愛好はそれほど有名ではありませんが、彼も「無数の異なった魚」が存在するこの水について多くのことを語っています。

ランプやろうそくの火によって目をくらませられ、眩惑させられる魚たちの愚かさについても述べています。というのもこの光は、「漁師たちがしかけているわなが見えないようにするため暗闇の中で役立っている」（1S8,3）からです。

でもこのエピソードの魚たちは、少し違います。

十字架のヨハネは、水を見ながら、また水が流れゆくのを眺めながら、祈ることがとても好きでした。それは、彼の『何とよく私は泉を知っていることか』という偉大な詩で歌ったように、「湧き出て流れる泉」が神の神秘を想い起こさせたからです。

また彼は、野外の孤独の中で母なる自然に触れながら、祈ることがとても好きでした。

そして彼が個人的に好きであったばかりでなく、兄弟たちや修道者たちにも、このような孤独の環境で祈ることが好きになるよう仕向けました。

（続）

何気なく蹴りし石ころ掌に取ればいびつに丸む
愛しきかたち

この小石かつてごつごつ角ありし少壮のかほ如
何なりしか

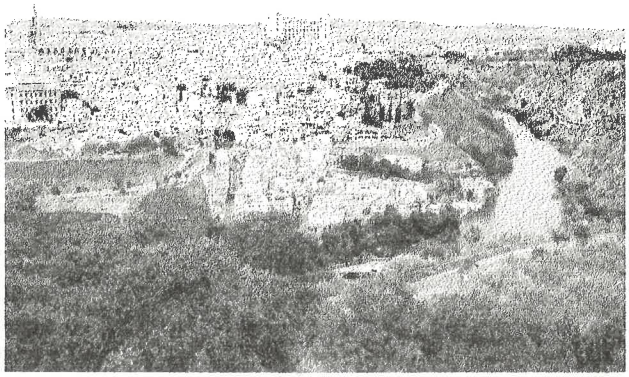
道のべに蹴られけられて後もなほしづかさたた
ふ小石のおもて

故クララ・密本 延枝さまの歌集「オルゴール」より

スペイン紀行（2007年）No.5

（トレド）

スペインの首都、マドリッドの南、路線バスで約1時間走ったところに古都トレドという町がある。ここは、スペインの歴史的に大切な遺産が残っている。西暦711年以来、約400年にわたってイスラム教徒に支配されて、1085年にアルフォンソ6世の奪回により、カトリック教徒の都となった。しかし、1085年の奪回以降も、多くのイスラム教徒、ユダヤ教徒が居残り、多くの影響を及ぼした町でもある。そのため、現在もユダヤ教のシナゴーグやイスラム教徒建築のメスキータが残っている。しかし、1492年にグラナダ王国（イスラム王国）滅亡、カトリック両王（イザベル女王、フェルナンド王）のユダヤ人追放勅令により、このトレドからもユダヤ教徒の姿が消え始め、また、スペイン内のカトリック化により、イスラム教徒も消え始めた。この数十年後に、跣足カルメル修道会の創立が、このトレドにも始まった。



1569年5月14日、修道院がここトレドにもアヴィラの聖テレジアによって、創立された。聖女の創立はここにおいて第5番目である。しかし、一年後、アルフォンソ・アルバレスとの交渉の結果、1570年5月18日に新しい家を購入し、そこに落ち着く。1575年に聖テレジアはセビリアに修道院創立のためアンダルシアに出かけるが、その後1576年6月22日から約一年間、聖女はトレドに住み着き、このトレドでグラシアン神父の命令（1577年5月28日）により、『霊魂の城』を書き始めた場所でもある。『霊魂の城』の完成は、1577年11月29日、アヴィラに移ってからであった。現在の修道院は城壁内であるが移転していて、当時の場所にはない。

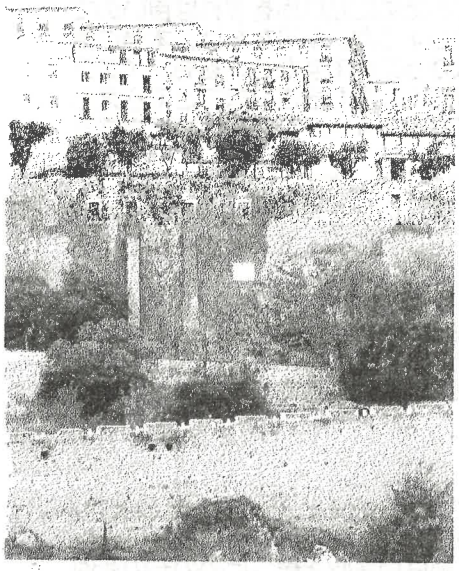
実は、ここの修道院は、十字架の聖ヨハネとも縁があるところである。当時、スペインのカルメル修道会は、エウジェニオ4世教皇によって緩和された会則（1432年）に従って生活していたが、アヴィラの聖テレジアによって改革されたカルメル会は、イノセント4世によって認可されたエルサレムの大司教アルベルトがカルメル山の修道者に与えた会則（1247年）に従って生活することを宣立したグループであった。そのため、二つのグループの内輪もめが1570年代に

入って始まった。十字架の聖ヨハネは、アヴィラのエンカルナシオン修道院の付司祭として働いていたが、緩和会則に従っていたカルメル会士によって、トレドの修道院の牢屋に入れられたのが 1577 年 12 月のことであった。1578 年 8 月の聖母の被昇天のお祝い日付近に、十字架の聖ヨハネは、この牢屋から逃げるのであるが、逃げた先が、この女子カルメル修道院であった。この後、当時の院長の計らいで、トレドの『聖十字架病院』で静養することになる。この修道院の牢屋にいる間に、十字架の聖ヨハネは詩を作成した。そして、この時期から多くの詩を作り出し、彼の著作物が生まれてくるのである。

十字架の聖ヨハネが、スペインの偉大な詩人であるならば、スペインの代表的な宗教画家の一人、エル・グレコも、このトレドと深い関わりがある。彼も 16 世紀のスペインで活躍した人物である。彼の晩年は、このトレドで過ごし、また多くの絵画を残した。現在でも、エル・グレコが住んでいた付近に『エル・グレコの家』として彼の多くの作品が展示されている。この家の隣にはサント・トメ教会があり、その中には、彼の傑作「オルガス伯爵の埋葬」の絵が展示されている。

また現代に入って、1936 年にスペインのトレドのカルメル修道院にいた 16 人のスペイン修道者たちが、スペインの内戦により（スペイン市民戦争 1936 年～1939 年）、殉教した場所でもある。この時期、政治的、思想的に混乱期にあった。その中で、教会に反発するグループにより、多くの聖職者・修道者が殺された。その中に跣足カルメル修道会の会員も含まれていた。2007 年 10 月 28 日にローマで、スペインの内戦で殉教した多くのカトリック教徒の列福式が行われるが、トレドで殉教した跣足カルメル修道会会員 16 人も含まれている。

(Fr.　松田浩一　OCD)



（十字架の聖ヨハネが脱出した牢屋があったとされるところ）

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

18. 福者十字架上のイエスのマリア（1846－1878）── その5

マリアム・バウアルディは1846年ガリレアのアベリンに生まれた。彼女の一家は、レバノン人でギリシャ・メルキ派のカトリック教徒であった。マリアムは幼い頃から、苦行と謙遜に心をひかれ、聖母マリアに対する深い信心を持っていた。彼女の生涯は、聖体に対する深い渇望に特徴づけられる。

1870年、ポーのカルメル会に入会する。その修道生活全体に超自然的恵みが目立っている。1873年から1874年にかけて、8度、恍惚状態で空中に引き上げられた。聖痕も受け、それは強く甘美な芳香を放っていた。心臓は貫かれ、ご出現や、実際に実現した預言を度々受けている。マリアムは神秘的知識を有し、同時に二箇所にいたことさえあった。また詩の才能にも恵まれ、それは彼女が学校教育を受けていないことを考えれば驚くべきものである。福者マリアはインドのマンガロールにも赴いたが、その後ポーに戻る。この「小さなアラブ人」はベトレヘムの修道院を創立し、1878年に亡くなった。

── 祈り ──

聖霊よ、私を照らし導いてください。イエスを見つけるために私は何をすれば良いのでしょうか。そして、どのようにそれをすれば良いのでしょうか。弟子たちは、本当に無知でした。イエスと共にいたのに、イエスを理解しなかったのですから。私も、イエスと同じ家に住んでいながら、イエスを理解してはいません。最もささいなことでさえも私を困らせ、動揺させます。私はあまりにも感じやすいのです。イエスのために犠牲をお捧げする寛大さが、私には足りません。

おお聖霊よ、あなたが弟子たちに一筋の光を注がれたとき、彼らは姿を消しました。彼らは、もう以前のような者ではなくなったのです。新しい力を見いだし、犠牲を捧げることは易しいと分かりました。イエスと共にいたとき以上に、イエスをよく知るようになりました。

平和と光の源よ、来て、私を照らし導いてください。私は飢えているのです。来て、私に食べさせてください。私は渇いているのです。来て、私の渇きをうるおしてください。私は盲目なのです。来て、見えるようにしてください。私は貧しいのです。来て、私を豊かな者にしてください。私は無知なのです。来て、私に教えてください。

聖霊よ、私はあなたに自分を委ねます。

私の神よ、私がどのような者であるかを分からせてくださったことを感謝いたします。奇跡を行なうよりも、自分の弱さを知る方を、私は好みます。それが、私にとってより良いことなのです。私が倒れるのを人々が見るとき、私は自尊心を養うためのものを何も持たないのですから。あなたが私の唯一の力であることを私に分からせてくれますから。千度倒れる方が、私にとってより良いことなのです。それによって、私が二千回「おお、主よ、あなたに望みをおきます」と言うことになるならば。主よ、感謝いたします。感謝いたします。

おお、愛よ、愛よ、愛よ！　愛であるお方は知られていません。愛であるお方は愛されていません！　愛であるお方を愛しましょう。愛を愛しましょう！　愛のみ、愛のみ！

私は祈祷所で、ご聖体の前におりました。私はイエスさまのために何かをしたいという大きな望みを感じ、イエスさまに申し上げました。「主イエス、あなたを喜ばせ、あなたにお仕えするために何をしたら良いでしょうか。」　すると答える声がしました。「あなたの隣人に仕えなさい。そうすれば、あなたは私に仕えていることになるのだ」と。
　私は、二度目に尋ねました。「主よ、あなたを愛するために何をしたら良いでしょうか。」　すると答える声がしました。「あなたの隣人に仕えなさい。そうすれば、あなたは私に仕えていることになるのだ。それが、あなたが本当に私を愛しているという証拠なのだ」と。

マリア、晩餐、憩い

私のために取り置かれたパンを、私の美しい御母が祝福してくださいました。
今、私の地上での命は終わりに近づいています。ですから、優しい御母よ、
私はあなたにお願いします。私を永遠にあなたのおそばに置いてください。
愛する御母よ、私の糧は、あなたを見たいという望みです。
私の渇いた霊魂が飲む水は、あなたに対する私の愛です。
私の真の命、私の霊魂の命は、あなたを愛することによって、いっそう活力を得ます。
私の憩いは、あなたを求めることです。昼も夜も、留まることを知らずに。

福者十字架上のイエスのマリア

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites（Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., ホームページ http://www.ignatius.com）の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

（注）タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは烏に命じて、そこであなたを養わせる（Ⅰ列 17:3-4）」ということばに由来しています。

（泰阜カルメル会訳・編）

コンクラーベ（魂比べ）

朝、聖堂の窓を開けていたら、窓下の隣の八幡様の境内を、社の管理のおじさんが、欅,銀杏の木々の落ち葉をセッセと掃いていた。大して広い境内ではないのだが、それらの木々は結構年代を経ているので、空まで突き上げるような大木になっている。

これらの木々は、夏は参拝客の憩いの場として木陰をつくり、大人にとっては一休みしながら四方山話にはなが咲く場として。　子供たちにとってはすべり台、ブランコ、鉄棒、砂場遊びの出来る楽しい場となっていた。ウチの修道院とはコンクリート塀一つで仕切られているために、その話声と遊具の音は、すべてストレートに聖堂まで上がってくる。そんな至近距離だから、管理人のおじさんの落ち葉を掃く音も、耳元近くに聞こえる感じである。落葉樹が殆どだから、秋は葉っぱが境内に散乱し、対応するおじさんも容易ではない。今掃いたトタンから枯葉は容赦なくハラハラと舞い落ち、人気のない時なら“カサリ”という音まで聞き取れる程なのだ。こんなに遠慮なく舞い降りてくるのだから、ふつうの人なら、“アーア”とガッカリするのは当たり前だろう。そんな景色を窓越しに見る度に、私は「このおじさん、えらいなあー」と感心する。私だったらもしかして２日に１度位にして、ある程度まとめて掃くかも知れない。魂尽きてしまうからだ。だからこのおじさん、精魂かけて、落ち葉と格闘しているのはほんとうに偉いなあ、と思う。まさに”魂比べ”である。

そういえば、教会として全世界の枢機卿や司教様方が、ローマに集まって教会の大切な問題を討議する会議を“コンクラーベ”という。大分以前になるが、私もヴァチカンの会議場を見学して、その広さ、荘厳さ、美しさに驚嘆したことを思い出す。両側を階段状に、底辺の中心部に向けて立派な椅子が劇場の観客席のように整列し、底辺の深紅の椅子に着席するのは、恐らく会議を取り仕切る枢機卿の一団なのだろう。世界中から列席するお偉ら方が、論戦を交わされる場面が彷彿と瞼に浮かび上がったのを思い出す。

そんなわけで、ほんとうのコンクラーベは、私達と凡そ程遠いものだが、私達のコンクラベは、遠くローマまで行かなくとも日々降ってくる“魂競べ”だと思う。八幡様のおじさんについての話は、落葉の数と頻度に対する労力の問題だが、私達普通人の日常生活に降ってくる問題は、何といっても人間関係である。

相手の心はいざ知らず、性格、育ち、教育などの相違からくる自分への重荷だ。それを“魂競べ”的にじっとガマンして、表面はきれいに飾った態度に切り替えようとするが、そこには緊張とエネルギーが加わるから、本来のその人らしさは失われ、しかもモーターが大きく廻り過ぎるので、そのエネルギーのために疲れ果ててしまう。疲れが本人に戻ってくるのは仕方ないものとしても、果たしてそれでよいのだろうか。キリストとの関係は一体どうなっているのだろう。

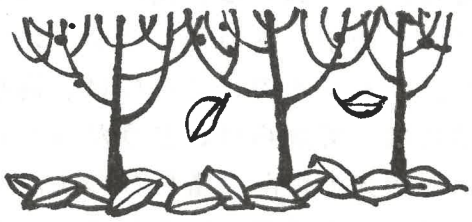
外面だけつくろって“魂競(コンくら)べ”的に行動するなら、それはファリザイ的な行為に過ぎず、“イエスの受難と死”の意味から全くかけ離れてしまう。“イエスの受難と死”の意味は、全くご自分自身に死なれ、神の特権を持ち出して強者になられたワケではなく、逆に人間として最低の道を歩く　という、つまり受難と十字架の道を選ばれたのだった。

私たち人間は、と角自分の立場、名誉を、意識的にも無意識的にも、「魂比べ」の方に向けてしまっているのではないだろうか？

ミサの中で、そして毎日起こる出来ごとの一コマ一コマの中で、神であるキリストが人間としてへり下られ、人間達のイジメと不理解の中で受難の道を歩かれ、十字架にかかって亡くなられたそのキリストを、私はそんな時にどれ程思い起こすことができるのだろう……

この真(まこと)の意味で、この頻度数が増えていく人こそほんとうのキリスト者と言えるのではないだろうか　とシミジミ思ったのだった。

お告げのフランシスコ姉妹会　　Ｓｒ．熊田　照子



「挨拶」の不具合について　　石原淳子

このところ、テレビなどで頻繁に耳にする言葉に気をとめています。「挨拶」という言葉です。　例えば、「会えばちゃんと挨拶してくれるし悪いことする人には見えませんでしたよ」。「きちんと挨拶出来るし・・」「日常の挨拶が出来ないようじゃ困る　ありがとう　ごめんなさいぐらいきちんと云えないと」。「挨拶は家庭からですよ」。というようにです。

「挨拶」とは、或る種上等な人間としての必須の条件というか、評価となっているのです。

そのことに私は決して異を唱えるものではありません。その通りと思います。　しかし、私自身の忸怩たるものも含めて、何か複雑な思いに押されて、落ち着かなくなるので、今回ここに取り上げてみました。

広辞苑によると「挨拶」とはもともと禅家が問答を交わし、悟りの深浅を試みることを云うそうですが、他に返事、うけこたえ、儀礼的に交わす言葉や動作、祝意、また一方では相手の非礼言動を皮肉って云う言葉、更には仲裁、紹介、人と人との間柄、など多岐にわたります。

いきなり私事で恐縮ですが、我が家では家族間に「挨拶」はありません。夫婦の間、親子の間でおはようとか、また、ありがとう、ごめんなさい等等の所謂「挨拶」を意識して交わすことはないのです。こどもに対しても、ありがとう、ごめんなさいを云いなさいと教えたことはありません。

何か大きく信条のようなものあってのことでなく、結婚して、子どもが生まれ、自然にそうなりました。　例えば、朝、「いっていらっしゃい」「気をつけて」ではなく、「ママの子　神の子　サレジオ（幼稚園）の子」と頭をなでて送り出しました。サレジオのところには、高校ぐらいまで学校名が入ります。さすがに大学になってからは、どうだったか覚えておりませんが。　私の友人は「何でママが先で神が二番目なのよ。それにパパはどうしたのよ」と言い、夫は「家はママの子でいいんだよ」と言っていましたが、そうやって「ママの子　神の子　サレジオの子」と送り出され、「うん」と云って出て行く子どもが、一体何をどのように納得して「うん」と云っていたのかは、話し合ったことがないので分からないのですが、でも「うん」だったのです。

重ねて私事になりますが、私は「挨拶」に関して忘れられない強烈な体験があります。現在は大学生になりましたが、孫のRが三才頃のことです。

「おばぁちゃんお水頂戴」と言ってきたので、「はぁいお水よ」とコップを差しだした時、Rは「ありがとう」といって受けとりました。

その時のその瞬間の不意の衝撃は、今も鮮明です。（敢えて考えて云ってみるなら）一瞬不意を食らって深い寂しさに突き落とされた混乱というか、え？　どうして？　そんな事云わないで！という懇願というか・・・。

孫のRが、おばぁちゃんお水頂戴と言ってきたので、はいお水とコップを渡す　その事がどれ程嬉しく、無上の時であるか、Rと私の深い深いつながりの時　それを「ありがとう」という言葉でチョンにしたくない　一杯の水に応ずる、コップを渡す、受け取る、二人のあいだは、それだけでいいというより、もっと、それだけこそが十分なのだ、という事。　　但しここでRの母親、即ち私の息子のお嫁さんの名誉のために是非に申し添えますが彼女は私の愛する家族であり、子供たちに社会人として人としての、あるべき様を、しっかりと授けていて、私は心からそれを誇らしくあるのです。

人が言葉をつくり、集まりあって社会を成し、互いに生きる時、どうしても全ての人に当てはまるコミュニケーションの仕方、「形」という区分も必要としたのです。便宜とも云えるでしょうが、人と人との関わりを円滑にするための文化とも云いうるでしょう。　人と人が如何なる状況下にあっても、常に命懸けで、真心引っ提げて言葉を交わすことは、誰が考えても何かが果ててしまいます。この辺りの不具合をどう生きるかが「挨拶」にも如実に現れるように思います。　人は自らの必要を以て作り上げる文化を、過不足なく機嫌良く用いこなすのに、どのような智慧が要るのでしょうか。

〔付〕

以前、黙想の家で、押田神父さまの本を読んでいて、「ありがとう」に関しての記述があり、次のような文に出会いました。（記憶定かでなく引用不備ですが）ーーー良寛様の鼻緒が切れて、村人が駆け寄り直してあげた。しかし、良寛様はお礼を云わずに去ったので、村人は私が悪い人間だからですかと尋ねると、良寛様は目に涙をためて、どうして「ありがとう」と云えよう。直して貰った時、あなたと私は永遠に結んでいたのに「ありがとう」と言ったらそれが切れてしまう。とお答えになった。ーーーというような内容でした。　私は、今一度これを読んでみたいのですが、書名さえも記憶の彼方です。若し、どなたかご存じのお方がおいででしたら、お教え頂けたら大変嬉しいです。

静かな夜

海は、静かになって
きれいな星が、波を照らし
きらきらあなたを賛美している
小さなおふねにあなたを抱いて
毛布にくるんだあなたを抱いて
静かな海をゆらゆらいこう
ゆらゆら神の愛にまかせて

小さなイエスが起き上がり
おふねの外におりちゃった
神の御心の海をにこにこと
小さな足で歩いているよ
静かな海をゆらゆらいこう
ゆらゆら神の愛にまかせて

おふねの上に戻って、またわたしの腕の中
今すやすや眠ってしまったよ
星の光はきらきら微笑んで
銀色の子守唄を唄ってくれるよ
静かな海をゆらゆらいこう
ゆらゆら神の愛にまかせて

静かな海をゆらゆらいこう
ゆらゆらいのちの水平線へ
ゆらゆら神の愛にまかせて

ハレルヤ！　　丸山知佳子

待降節にあたって

篠原三恵子

「父よ、今御前でわたしに栄光を与えてください。世界が造られる前にわたしがみもとで持っていたあの栄光を。」（ヨハネ１７：５）これはイエス様が最後の晩餐のあとで、御父にささげた祈りの中の言葉です。ここでイエス様は、ご自分が持っていらした栄光について言及されます。クリスマスは、神の第二位の位格を持った方が、ご自分の被造物にすぎない私たち人間の罪を贖うために、天の栄光を離れ、私たちと同じ肉の姿を取るために地上に降りてきて下さった出来事です。「主は豊かであったのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは主の貧しさによって、あなたがたが豊かになるためだったのです。」（２コリント８：９）

そしてルカ福音書には誕生の様子が記されています。「彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。」（ルカ２：６～７）。天地の創造主である方、王の中の王であられる方が、誰からも迎えられず、寒い晩にひっそりと、固い飼い葉桶に横になられたのです。これはどういう死に方をされるかを暗示してはいないでしょうか。人々から拒まれ、十字架の木の上で亡くなられたあの姿を。

イエス様は私たちすべての人を救うため、贖いの御業を完成されるために来てくださいました。この世の慰めや楽しみを求めるためではなく、その全生涯は御父にささげられたものでした。その贖いの御業をこうして始められたのです。ですから飼い葉桶こそがふさわしい場所でした。ここにすべての人の救いだけを願い、ご自分を顧みられることなく、私たち人類への愛を貫かれた御生涯の出発点があります。

私たちを愛するあまり、御独り子を私たちに遣わしてくださった御父に感謝しつつ、ふさわしく御子をお迎えできるよう心の準備を致しましょう。

いのちの言葉　11月

このすべての律法のように、正しい掟と法を持つ大いなる国民がどこにいるだろうか。　（申命記　4・8）

イスラエルの民にとって、40年にわたる砂漠での歩みは、試練と恵みのときでした。神は民の心を清め、彼らに対するはかりしれぬ愛を示されました。

約束の地に今や入ろうという時、モーセはそれまでしてきた経験を思い起こします。特に、「十戒」に要約される神の掟という、彼らが受けた最も大きな賜物を思い出し、これを実践するよう皆を招きます。

モーセは神の教えを提示しながら、神がどれほどご自分の民のそばにいてくださり、民に心をかけて世話をされ、知恵にあふれる生活の掟を教えてくださったかに心打たれ、声高らかに告げます。

このすべての律法のように、正しい掟と法を持つ大いなる国民がどこにいるだろうか。

神はご自分の掟を人間一人ひとりの心の中に刻まれ、それぞれの時代に異なる形で、あらゆる民に語ってくださいました。すべての人が、自分に示された神の愛を喜ぶことができます。

しかし、神が人類に持っておられるご計画を推し測るのは、必ずしも容易なことではありません。そこで神は、このご計画をより明らかに示すため、イスラエルという小さな民をお選びになり、最終的には、御子イエスをお遣わしになりました。イエスは満ち満ちた形で愛である神の姿を人々に示し、すべての神の掟を「神への愛と隣人への愛」という「唯一の掟」の中に要約されました。

神の掟を受け入れて、「はい」と答えることの内に、ある民、ある人の偉大さを見出すことができます。

ただし神の掟を受け入れるとは、ただ表面的にするのではなく、まして人間らしさを失わせることでもありません。また、そこそこの人生を運命として仕方なく受け入れることでもなく、「どうせこのようにしかならない、こうなるべきだったのだ、避けようがないのだ」と、不幸な運命を堪え忍ぶことでもありません。

そうではなく、神の掟を受け入れるのは、人間にとって最良のことなのです。その人の上、また人類の上にある、神の偉大なご計画が表れるように協力できるのです。人類に対する神のご計画とは、すべての人が愛によって一つに結ばれ、ただ一つの家族になり、皆が神の聖なる命を生きるようになることです。

ですから私たちも、モーセと共に、高らかにこう言うことができるでしょう。

このすべての律法のように、正しい掟と法を持つ大いなる国民がどこにいるだろうか。

では今月のいのちの言葉をどのように生きることができるでしょうか。

イエスはすべての神の掟を、「愛」という唯一の掟に要約されました。ですから、神の掟の本質的な部分に目を向けましょう。

神が旧約聖書の中で私たちにお与えになった「十戒」を一つずつ見てみると、神と隣人を真に愛することで、私たちはすべての掟を完全に守ることができるのがわかります。

神を愛する人は、他の神を心に迎えることがないでしょう。

神を愛する人は、神の名を聖としますから、みだりに呼ぶことはありません。

愛する人は喜んで、自分が最も愛する御方に、一週間のうち一日を捧げることでしょう。

すべての隣人を愛する人は、当然自分の両親を愛します。

また隣人を愛する人は、決して盗んだり、殺したり、自分勝手な楽しみのために相手を利用したり、相手に関して偽証したりはしないでしょう。

愛する人の心はすでに満たされ、満足しているので、他人の持ち物、他人の妻や夫を欲することはないでしょう。

そうです。愛する人は罪を犯さず、神の掟をすべて守ります。

私は各地に旅をし、様々な国民や種族の人に会った際に、このことを経験しました。特に、西暦二千年にカメルーンのフォンテムを訪れ、その地で「愛する招き」に新たに応えたバングア族の人々に会った時、強烈な印象を受けました。

では一日の中で、時折自分に問いかけてみましょう。「私の行動は、愛になっているだろうか」と。もしそう言えるなら、私たちの人生は無駄ではなく、人類に対する神のご計画が成就するための貢献となるでしょう。

キアラ・ルービック

（2007.11）

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

ある日、自転車で帰宅途中雨が降り出しました。「これは大変だ、大雨になる」と思い、懸命にペダルを踏みました。ふと前方を見ると、一人のおばあさんが重そうなゴミ袋を引きずり、一歩一歩、歩いているのが見えました。土砂降りの雨になりそうだし、何も考えずにさっと左折しました。そのとき、「それでいいのか？あのおばあさんは？」と心に響きました。私ははっとして自転車を止め、走って引き返し「おばあさん、お手伝いしましょう」と声をかけ、ゴミ袋を受け取り、収集場所へ走って持っていきました。後方で「あんたは誰かね～ありがとう」と声がかかったので、私は立ち止まって、笑顔を返して、ゴミを捨て帰宅しました。イエス様のために「ハイ」と従った小さな愛の行いをしただけなのに、喜びと平和で満たされました。

（奄美大島　M）

連絡先
フォコラーレ：
03-3707-4018/03-5370-6424
E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp
ホームページ：
http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito

このちいさな群れをどこへ？———セワ・ケンドラの日々　その⑥　スッカ

（セワ・ケンドラは、ネパール王国ポカラにある知的障害者通所施設。この国で初めての大人の知的障害者のための施設。通称大天使ミヤを中心とする仲間が日本から支援し、現地のスタッフが運営している。設立四年目）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

８月半ば、一人の男の子が新しくセワ・ケンドラに来た。軽度知的障害。
名前はｓａｂｉｎ、１５歳というけれど、とても大きい。送り迎えは兄嫁。
sabinを送ってきたついでに、セワでのみんなの様子を興味深げに見ている。

さて、そのsabin、セワにあっというまになじんでしまった。それは、周りの人がどんどん教えるから。　先生は見守りながらポイントを押さえるだけ。

みんなでよってたかって、セワでのやり方を教える。
着替え、当番の役目、食器洗い、洗濯、調理、体操、靴のそろえ方、などなど
みんなが教えながら手伝う。　マヒのある子もできることは自分でするセワ。
そういえば、排泄の始末がうまくできないマニシャを、一番年上のスニータは自分がトイレに行くときに必ず誘って手を引いていく。　そして手を貸す。
すべてこのように、できる人ができない人に手を貸す。手伝う。素敵な伝統。

先生たちに聞くと、「そうしなさい」と命令したわけではないそうだ。
みな、先生たちのやることを見ていて、自然にそうなったという。
いつ見ても、いつ行っても、「セワ・ケンドラはファミリーだ」と思う。
カトマンズのスペシャル・オリンピックスに参加したときのこと。
スッカが「たくさんの人たちを３泊４日も先生たちだけで世話をしてたいへんだったでしょ？」と聞いた。　「そんなことはありません。みんな自分のことは自分でやるようになっていますし、できない子はできる子が世話をしますから、そんなに負担ではありませんでした」　という先生たちの返事。（実は車酔いで吐く子が何人もいて大変だったのに）　怒鳴り声など聞いたことがないセワ・ケンドラ。　すてきで不思議な空間。

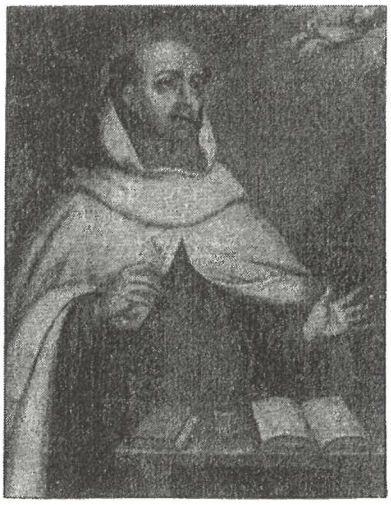
ウェブ・ログ「セワ・ケンドラの日々——みんな生まれてきてよかったね！」
http://sewa.pokhara.jp/　　ご覧くださいね。そして
この小さな群れのためにお祈りください。　　スッカ（幸せという意味）

カルメル会の企画案内

カルメル会の企画案内

十字架の聖ヨハネの祭日

前晩と当日の典礼へのご案内



十字架の聖ヨハネは、１５４２年6月２４日？フォンティベロスという小さな村にゴンザロ・デ・イエペスとカタリナ・アルバレスの三男として生まれました。ゴンザロは貴族の家柄でしたが、カタリナは貧しい孤児。ゴンザロは貴族の身分を捨て、カタリナと結婚しますが、ヨハネが三歳の時、帰天します。残された家族は、さらに貧しい生活を余儀なくされ、家族はメディナ・デル・カンポに移り住みます。

ヨハネは２１歳の時、カルメル会に入会。翌年誓願を立て、サラマンカ大学で勉強を続けます。１５６７年に叙階、その直後、アヴィラの聖テレジアに出会い、会の改革を促されます。翌年、ドゥルエロに男子の最初の改革修道院を創立。改革運動を続けますが、１５７７年には反対派に捕えられ、トレドの修道院の牢獄に閉じ込められます。

その後、改革カルメルの管区長代理等を務めますが、最後は、第二代管区長ドーリアによりすべての長上職を剥奪され　ウベダに逗留中、病状が悪化。１５９１年の１２月１４日深夜０時に帰天。１７２６年にベネディクト１３世により列聖され、１９２６年にはピオ１１世により教会博士とされます。皆様と共に、本会の霊的父である十字架の聖ヨハネの祭日を祝いたいと思います。

カルメル会上野毛修道院長

九里（くのり）　彰神父

前晩１２月１３日（木）の典礼

１９：３０　晩課「教会の祈り」　司式：大瀬神父

晩課終了後、沈黙の祈り

２０：００　前晩のミサ　司式：大瀬神父

当日１２月１４日（金）の典礼

６：３０　早朝ミサ　司式：大瀬神父

１０：００　当日ミサ　司式：九里神父

東　京

上野毛霊性センター　'07年12月～'09年3月

A　黙想企画　＊＊　聖テレジア修道院（黙想）＊＊

1．一泊聖書深読（毎回土曜日　夕食～日曜日16時）

	12月15日～16日	九里彰師
08/	2月23日～24日	九里彰師
	5月24日～25日	カルメル会士
	7月26日～27日	カルメル会士
	11月29日～30日	カルメル会士
09/	1月24日～25日	カルメル会士

日帰り聖書深読（毎回土曜日午前10時～午後4時）

08/	1月12日	九里彰師
	3月15日	九里彰師

2．奉献生活者のための黙想会

	12月26日（水）夕食～ 08/1月4日（金）朝	福田正範師
A 08/	8月 5日（火）夕食～8月14日（木）朝	カルメル会士
B	8月18日（月）夕食～8月27日（水）朝	カルメル会士
C	11月8日（土）夕食～11月17日（月）朝	カルメル会士
D	12月26日（金）夕食～09/1月4日（日）朝	カルメル会士

3．木曜黙想会　一般黙想（毎回木曜日10時～16時）

	12月20日	お言葉どおり、この身に成りますように	九里彰師
08/	1月31日	主よ、助けてください	福田正範師
	2月28日	見えない者は、見えるようになる	九里彰師
	3月27日	あなた方に平和があるように	福田正範師
	4月 3日	未定	カルメル会士
	6月 5日	未定	カルメル会士
	9月 4日	未定	カルメル会士
	11月 6日	未定	カルメル会士
09/	1月 8日	未定	カルメル会士
	3月12日	未定	カルメル会士

4. 金曜黙想会　カルメルの聖人（毎週金曜日 10 時～16 時）　東　京

	11月 2日	自分に死に、あなたに生きんことを	福田正範師
	12月 7日	三位一体のエリザベットの示す「天国」	九里彰師
08/	2月 8日	御復活のラウレンシオ	福田正範師
	5月 9日	未定	カルメル会士
	7月 4日	未定	カルメル会士
	10月10日	未定	カルメル会士
	12月12日	未定	カルメル会士
09/	2月13日	未定	カルメル会士

5.一般黙想会（毎回土曜日　夕食～日曜日16時）カルメル会士

08/　4月　5日～　6日
　　6月21日～22日
　　10月25日～26日
09/　2月　7日～　8日

6. 青年黙想会（男女）　カルメル会士　神学生

08/　4月27日（日）～29日（火）　17時受付
　　10月　4日（土）～　5日（日）　15時受付

7. 召命黙想会（男女）　カルメル会士

08/　6月28日（土）～29日（日）・・15時受付
11月23日（日）20時～25日（火）・・（23日は夕食を済ませてご参加ください）

8. 大祭日のミサに与かるために

【クリスマス】・・チェックイン午後３時、チェックアウト午前 10 時
12月24日（月）～25日（火）《講話なし、夕食なし》
【聖週間を祈る】・・チェックイン午後３時、チェックアウト午前 10 時
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能。
08/　3月20日（木）～23日（日）《講話なし、各食事つき》
【クリスマス】・・チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時
08/　12月24日（水）～25日（木）《講話なし、夕食なし》

9. 特別黙想会　“私は神を見たい”　シリーズ　　伊従信子NDV

5月16日（金）20時～18日（日）16時（16 日は夕食を済ませてご参加ください）
10月11日（土）20時～13日（月）16時（11 日は夕食を済ませてご参加ください）

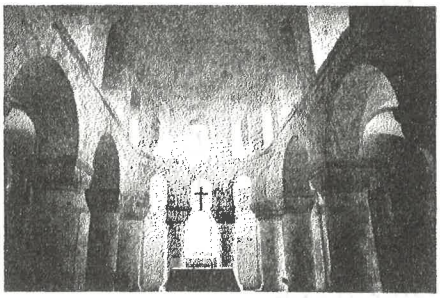
東　京

１０．待降節黙想会　カルメル会士

08/　１２月５日（金）２０時～７日（日）１６時（５日は夕食を済ませてご参加ください）

１１.四旬節黙想会　カルメル会士

09/　３月６日（金）２０時～８日（日）１６時（５日は夕食を済ませてご参加ください）



電話でのお問い合わせは午前 9 時から午後 4 時 45 分までにお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので
なるべく FAX・はがき・E メールでお願いします。（お返事はいたします）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
聖テレジア修道院（黙想）
TEL　03－5706－7355
FAX　03－3704－1764

Ｅメールは工事中のため、しばらくは電話、ハガキ、ＦＡＸでお願いします。

B　カルメル霊性研究クラス（九里　彰神父）

＊　十字架の聖ヨハネ『愛の生ける炎』
　１２月５日　　第三の歌（６３から８５まで）
　１２月１９日　　第四の歌　全部　（**ヨハネ研究クラスの最終回**）
＊　アヴィラの聖テレジア『創立史』
　１１月２８日　　第２３章～第２５章
　１２月１２日　　第２６章～第２８章
　2008年　１月１０日　　第２９～第３１章
どちらも水曜日夜７：１５～８：４５まで。テキストを少しずつ読み、解説と分かち合いがあります。随時参加もOKです。上野毛教会信徒会館２階２６号室。無料。

C　念祷の集い（九里　彰神父）

　１２月２１日　「神はわれわれと共におられる。」
　2008年　１月１８日　「キリストの平和」
毎月一回金曜夜７：１５分より。上野毛聖テレジア修道院（黙想）小聖堂。
都合の悪い場合は、上野毛教会信徒会館ホールで。無料。
７：１５　　聖歌　始めの祈り
　　み言葉と念祷
　　終わりの祈り　聖歌
８：１５　　分かち合い
８：４５　　片づけ　解散

D　東西霊性研究クラス　（九里　彰神父）

　カルメルの霊性を通して、広く諸宗教の霊性を学ぶクラスです。
＊　毎月第二金曜日（午後７：１５～８：４５）信徒会館２６号室。無料。
＊　第７回　１２月１４日　『老子』第２１章～第３０章
　　講談社学術文庫（金谷治訳注）を使用します。
＊　発表者：加藤和彦
＊　各回とも、参加者に順番でリポーターを勤めて頂きます。その後、分かち合い。
＊　問い合わせ：　加藤和彦　TEL（０３）３４１８－６８１６
　　E-mail　tokyo@carmel-monastery.jp
＊　第８回　　１月１１日　『老子』第３１章～第４０章

東　京

C.Y.C.（カルメル・ユース・クラブ）

キリスト者青年の集い

「ご降誕祭」の神秘

クリスマスは、現在、日本ではどこの家でも祝われるようになりました。でも残念ながら、飼い葉桶にイエスさまはいないのです。主役はサンタクロース、クリスマスツリー、クリスマスケーキ・・・　多くの子供たちにとっては、クリスマスプレゼントがもらえる日といったところでしょうか。ご降祭（クリスマス）の意味を共に考えましょう。

日　時：１２月２３日（日）１３：３０～１６：３０
対　象：１８歳以上　３５歳までの 青年男女
スタッフ：カルメル会士
場　所：カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）
東急大井町線 上野毛駅下車　徒歩５分

プログラム

１３：２０～	受付
１３：３０～１４：１０	始めの祈り・講話
１４：１０～１４：５０	分かち合い
１５：００～１５：５０	ミサ
１６：００～１６：３０	分かち合い（茶話会） 終わりの祈り
１６：３０	解散

その他

☆ 事前の申込みは不要ですので、お気軽にお越し下さい。お問い合わせに関しましてはFAXまたはE-mailに、住所、氏名、年齢をお書きいただき、下記までお送り下さい。

※C.Y.C.のご案内は、カルメル霊性センターのホームページからご覧いただけます。
http://www4.ocn.ne.jp/~carmel/　（各種黙想会・企画のご案内もございます。）

カルメル修道会　カルメル・ユース・クラブ（C.Y.C.）係　（神学生：古川）
[Fax] 03-3704-1764　[E-mail] tokyo@carmel-monastery.jp
（〒158-0093　世田谷区上野毛2-14-25　Tel　03-3704-2171）

東　京

新企画！

聖書深読黙想会（一日）のお知らせ

毎回好評の一泊聖書深読黙想会の姉妹編。

現在、一泊聖書深読黙想会が行われていますが、多くの方の要望により、どなたでも参加しやすい日帰り聖書深読黙想会を企画しました。
聖書を深く読み解き、分かち合いによって、今までとは違う聖書の世界が見えてくるかもしれません。

聖書に関心がある方はどなたでもご参加下さい。

日時：11月17日（土）九里彰師　了
08年　1月12日（土）九里彰師
3月15日（土）九里彰師
毎回10：00～16：00（昼食付）参加費用￥3,500

＊持参するもの

聖書（準備されておりますが、ご自分の聖書のほうが使いやすいと思われる方はご持参下さい）筆記用具。

＊お申込：

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル修道会上野毛聖テレジア修道院（黙想）
Tel　03-5706-7355　Fax　03-3704-1764
Eメール　mokusou@carmel-monastery.jp

京　都

‘０７年１２月～’０８年３月まで　黙想会案内　（宇治カルメル会）

＊＊宇治聖テレジア修道院（黙想）＊＊

1.聖書深読

一泊二日（午後５時～午後４時）

08/　　１月１２日（土）～１３日（日）　　渡辺幹夫神父

３月　８日（土）～　９日（日）　　新井延和神父

2.水曜黙想（午前 10 時～午後 4 時）

１２月１２日　十字架の聖ヨハネ　　新井延和神父

08/　　１月１６日　新しくなる　　渡辺幹夫神父

２月２０日　聖書の祈り　　新井延和神父

３月１２日　主の受難　　カルメロ神父

3.四旬節黙想（午後５時～午後４時）

08/　２月９日（土）～２月１０日（日）　カルメロ神父

4.待降節黙想（午後５時～午後４時）

１２月１日（土）～１２月２日（日）　　渡辺幹夫神父

5.奉献生活者の黙想（午後５時～午前９時）

１２月２７日（木）～　１月　５日（土）　　カルメロ神父

……

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

＊申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけＦＡＸあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、受付が休みになっている時はすぐに返事できないこともあります。その際は、おそれいりますが後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）
〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
TEL　0774-32-7016　FAX　0774-32-7457

聖書深読センターのご案内

京　都

1　東　京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。
2　宇　治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。
3　京　都（毎回土曜日）

１２月　８日　　新井延和神父

＊日曜日の福音を深く味わい、分かち合い、解読で学びながら福音を深く心に刻む聖書深読黙想会に、どなたでもご参加ください。

場　所：河原町カトリック会館６階又は７階
費　用：各回 2,500 円（昼食代を含む）
時　間：午前１０時～午後４時　　持参品：聖書・筆記用具・ノート
申し込み・問い合わせ　*（お申し込みは、各回３日前までに）*

〒604-8006　京都市中京区河原町通三条上ル河原町カトリック会館内　聖書委員会
ＴＥＬ：075-211-3484　　ＦＡＸ：075-211-3910

NEW企画！

聖書深読会ご案内　2008 年度

日曜日の福音を、読み、味わい、分かち合い、解読で学んで
福音を心に刻みます。どなたでも、自由にご参加ください。

1.　　５月 31 日（土）　　畠　基幸神父
2.　　７月 19 日（土）　　新井延和神父
3.　　９月 13 日（土）　　新井延和神父

場所；唐崎黙想の家（ノートルダム教育修道女会）
費用；１，５００円（昼食代含む）
時間；午前１０：００～午後４：００
住所；〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1
　　ＴＥＬ　077-579-7560
交通；ＪＲ京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車
　　琵琶湖の方へ徒歩　約１３分
申し込み・問い合わせ；ＴＥＬ　075-781-6438
　　ＦＡＸ　075-781-8935　Sr.福島まで

各回、お申し込みは前日までに
電話、ファックス、または葉書にてお願いします。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち２箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1　朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くＢ５用紙）を提出。
講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。
費用：６ヶ月 17,900 円（４、７、10、１月に納入）　継続の場合は 15,950 円
講師：九里彰師（奇数月）　新井延和師（偶数月）
問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル
私書箱 21 号　朝日カルチャーセンター通信講座部
電話 03-3344-2527（直通）

2　ミニ深読

グループで２、３時間かけて聖書深読法の一部分を行います。
聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。
遠方に、参加希望者が多数いる場合には、　　ＳｒパウリーナがＳｒパウリーナが指導に行くことも可能です。
問い合わせは「聖書深読センター」事務局　Ｓｒパウリーナまでご連絡下さい。

◎　聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

聖書深読センター
〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
所長：奥村一郎神父　　事務局長：新井延和神父　　連絡先：Ｓｒパウリーナ
ＴＥＬ　0774-32-7016　　ＦＡＸ　0774-38-2543
Ｅメール　carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内

雑誌「カルメル」No. 325（2007年夏号）「今日の霊性」

＊ 聖霊の光のもとに　一教父たちの教えと生き方(6)　…高橋正行
「あなたがたに平和があるように」
—ヨハネ福音書20章19～29節　…九里　彰
＊ 祈り(14)　…チプリアノ・ボンタッキョ
＊ 十字架の聖ヨハネ講話（7）　…フェデリコ・ルイス
愛で生きる(5)　…ペトロ・アロイジオ
エリザベットの「魂のこだま」、ギット(2)　—信徒の生き方を探る　…伊従信子
カルメルの馨り(9)　～ひとり海を渡ったおとめ～
OCD日本創立に向けた具体的な動きII　…大瀬高司
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(17)
—あなたの信仰を信じなさい　…伊従信子
＊ オウム真理教元信者の手記を読んで　…谷口正子
愛の断章(4)　…奥村一郎

雑誌「カルメル」No. 326（2007年秋号）「今日の霊性」

＊ 聖霊の光のもとに　一教父たちの教えと生き方(7)　…高橋正行
＊ 【霊的講話】存在の根底に立ち返る　…中川　博道
＊ 十字架の聖ヨハネ講話（8）　…フェデリコ・ルイス
アヴィラの聖テレジアのとらえた「謙遜」の意味(6)　…九里　彰
愛で生きる(6)　…ペトロ・アロイジオ
エリザベットの「魂のこだま」、ギット(3)　…伊従信子
カルメルの馨り(10)　—結実　OCD女子修道院創立とその後　…大瀬高司
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(18)　…伊従信子
＊ すべてを受け入れる　…森　みさ
愛の断章(5)　…奥村一郎

※ 雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費（年５冊：春夏秋冬号＋特集号、送料込み）として、3000円を下記へお振込みください。

郵便振替：００１９０－４－１９５４５７　跣足カルメル修道会

（お問い合わせは、事務担当竹田まで。TEL(03)5706-8356）

待望の再販

『自叙伝』（サンパウロ社）、『創立史』『完徳の道』『霊魂の城』（ドン・ボスコ社）

降誕祭のミサにあずかるための黙想

＊日時:　12月24日(月)夕食なし～25日(火)朝食後10時まで
24日(月)は、午後3時より入室できます。
講話は、ありません。
夜半のミサより主のご降誕(日中のミサ)にかけて主イエス・キリストのご降誕を黙想し、静修の時を過ごしましょう。

＊費用:　￥4000

＊お問合せ、お申込みは、上野毛聖テレジア修道院(黙想)
電話:03－5706－7355・FAX03－3704－1764

上野毛教会　降誕祭ミサの時間

★　降誕祭前夜のミサ

12月24日　(月)　19:30　子どものクリスマスミサ
21:40　クリスマス・キャロル
ご一緒にうたいましょう。
22:00　降誕祭荘厳ミサ
ミサ後ささやかな祝会
24:00　深夜ミサ

★　降誕際ミサ

12月25日　(火)　7:00　10:30（歌ミサ）　18:00

諸所の企画案内

CWC 企画

心のいほり

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

真命山霊性交流センター

ノートルダム教育修道女会

コングレガシオン・ド・ノートルダム

ノートルダム・ド・ヴィ

諸所の企画案内

【CWC 講話会】

現在は、**「聖書深読入門」**を行なっています。

講師：九里　彰神父（カルメル会）
日時：原則として第二火曜日（以下のとおりです）
場所：真生会館４階第８会議室　時間：午前１０時３０分～１２時
対象：キリスト教に関心のある方はどなたでも。
連絡先：神藤（ＣＷＣスタッフ）TEL（０３）３６４２－５６２９

２００７年
１２月１１日（火）
＊　いつもより簡単に聖書深読
　　を行い、その後ミサがあります。

２００８年
1月１５日（火）
2月１２日（火）
3月１１日（火）

方法

1．まず講師の選んだ聖書箇所を皆で一節ごとに「輪読」。
2．その後、沈黙の内に何度も読み、み言葉を味わう「素読」。
3．「素読」で受け取ったものを、一節ごと皆で分かち合う「合読」。
　他者の発言に対し、一切批評はしない。自分のことのみ発言する。
　（無理に発言する必要なし。何も発言しなくてもＯＫ。）
4．「合読」を受けて、講師がその日の箇所について解説する「解読」。

内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。
◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。
◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせて下さい。電話では取次いでおりません。
申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了お願いします。
◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町３－２７「心のいほり　内観瞑想センター」
藤原神父　FAX　072・802・5026
予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

★ 2007年度 ★

M1	07・05・17（木）2時から	05・23（水）2時まで	盛岡・白百合・シャルトル	了
K3	07・06・03（日）2時から	06・09（土）2時まで	東京・小金井・聖霊会	了
P2	07・06・17（日）2時から	06・23（土）2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	了
N1	07・06・26（火）2時から	07・02（月）2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム	了
Y2	07・07・22（日）2時から	07・28（土）2時まで	神戸・須磨・ヨハネ	了
P3	07・08・10（金）2時から	08・16（木）2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	了
K4	07・09・09（日）2時から	09・15（土）2時まで	東京・小金井・聖霊会	了
B2	07・10・17（水）2時から	10・23（火）2時まで	札幌・厚別・ベネディクト	了
N2	07・11・02（金）2時から	11・08（木）2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム	了
K5	07・11・11（日）2時から	11・17（土）2時まで	東京・小金井・聖霊会	了
P4	07・12・03（月）2時から	12・09（日）2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	

★ 2008年度(決まっている会場) ★

M1	08・01・11（金）2時から	01・17（木）2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K1	08・01・27（日）2時から	02・02（土）2時まで	東京・小金井・聖霊会
M2	08・03・10（月）2時から	03・16（日）2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K2	08・04・13（日）2時から	04・19（土）2時まで	東京・小金井・聖霊会
K3	08・06・01（日）2時から	06・07（土）2時まで	東京・小金井・聖霊会
M3	08・09・13（土）2時から	09・19（金）2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K4	08・09・28（日）2時から	10・04（土）2時まで	東京・小金井・聖霊会
M4	08・11・30（日）2時から	12・06（土）2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K5	08・12・09（火）2時から	12・15（月）2時まで	東京・小金井・聖霊会

一日内観・ミニ内観のご案内

一日内観

★宝塚売布女子ご受難会修道院にて
参加費は１万円

了2007年4月28日(土)午後2時から
29日(日)午後4時まで

・2008年4月26日(土)午後2時から
27日(日)午後4時まで

・2008年6月28日(土)午後2時から
29日(日)午後4時まで

ミニ内観

★沖縄・安里修道院・毎月第一水曜日
10時から3時まで・シスターかんな
電話　098・866・8293

★東京・神奈川県内観経験者のミニ内観の集い
聖母訪問会・三浦修道院にて
了 4月29日（日）了 6月10日（日）
問い合わせ　小倉
FAX　045・824・1462

リーゼンフーバー講座・集い案内

2007～2008年

キリスト教入門講座
金曜日　18時45分～20時30分　聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

キリスト教理解講座
毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分　聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。２年間のコース。
信仰理解と信仰生活の深まりを目的としキリスト教の中心的テーマを探究します。

聖書研究会
木曜日　12時45分～13時25分　上智大学7号館316号研究室
学生のどなたでも。新約聖書を１章ずつ読んで勉強します。

坐禅会
●月曜日　17時20分～20時10分
●木曜日　18時～20時30分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。祝日を除く。
３回坐り、間に講話があります。
どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。

接心
● ~~4月27日(金)20時30分～5月4日(金)13時~~ 了
~~6月22日(金)20時30分～24日(日)13時~~ 了
~~8月9日(木)20時30分～16日(木)7時30分~~ 了
~~10月30日(火)20時30分～11月4日(日)13~~ 了
秋川神冥窟。1泊2400円程度。
2008年2月23日(土)8時30分～24日(日)15時30分 上石神井。5600円程度。
● ~~5月12日(土)13時～13日(日)16時~~ 了
~~8月1日(水)17時30分～7日(火)13時~~ 了
宝塚市

ミサ
水曜日 17時10分～18時　上智大学内クルトゥルハイム１階右小聖堂
どなたでも。(5月2日、8月全休、10月31日、祝日は休み)

黙想
●「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時　聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し８月14日は休み。8月28日は上智大学内クルトゥルハイム聖堂。
12月25日(火)はクリスマスの黙想 (予定)。
●水曜日 18時～18時30分　上智大学内クルトゥルハイム１階右小聖堂
どなたでも。(5月2日、8月全休、10月31日、祝日は休み)
~~●通う霊操 8月18日(土)～8月26日(日) 18時～21時 上智大学内クルトゥルハイム聖堂~~

祈りの集い
●下記の土曜日 13時30分～16時　上智大学内S.J.ハウス第５会議室
講話、黙想、ミサがあります。
~~4月14日、5月26日、6月30日、7月14日、8月18日、9月8日、10月13日、11月17日~~、12月8日、
2008年1月12日、2月2日、3月15日
●ロザリオの祈り 同日16時10分～16時50分　上智大学内クルトゥルハイム１階右小聖堂

黙想会
~~5月19日(土)10時～20日(日)15時、9月22日(土)10時～24日(月)14時、~~12月1日(土)10時～2日(日)15時、
2008年3月8日(土)10時～9日(日)15時、上石神井。1泊5600円程度。

アガペ会
下記の日、説明会(13時30分)と集い、ミサ (14時～18時)　上智大学内S.J.ハウス第５会議室
~~4月21日(土)、6月16日(土)、10月21日(日)~~、2008年1月20日(日)

クリスマス会
12月15日(土) 17時～　聖イグナチオ教会信徒会館ヨセフホール(予定)。要申し込み。

クリスマスのミサ
12月23日(日) 14時～　上智大学内クルトゥルハイム聖堂

問い合わせ・連絡先
クラウス・リーゼンフーバー神父（上智大学文学部哲学科教授）
〒102-8571　東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス
電話　03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056
http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html
http://www.anatomists.net/K-Riesenhuber/index.html

リーゼンフーバー神父　キリスト教入門講座　2007～2008年

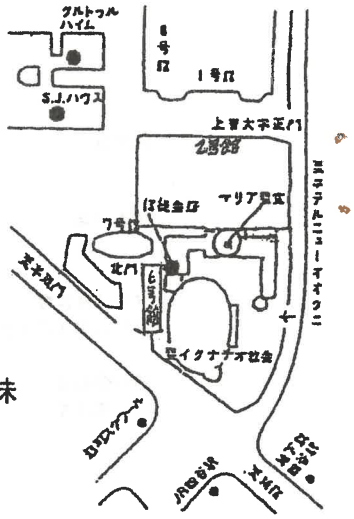
日時　毎週金曜日　18時45分～20時30分
場所　聖イグナチオ教会（四ツ谷駅前）信徒会館3階アルペホール　電話03-3263-4584

各　回　の　テ　ー　マ

12/1-2　●黙想会
12/7　恵みとゆるし－神の憐れみを受ける
12/14　愛の心－キリスト教の本質
12/15　クリスマスのミサとパーティ（教会信徒会館ヨセフホール）（予定）
12/21　隣人愛－他人のうちにイエスに出会う
12/23　ミサ（14時、上智大学内クルトゥルハイム2階）
1/11　希望を持つ勇気－未来に向かって歩む
1/18　霊の動き－福音による生き方
1/25　聖書と教会－信仰の基盤になる言葉
2/1　秘跡と教会生活－毎日を養う信仰
2/8　神の言葉－神との日常的な対話と黙想の仕方
2/15　結婚と独身－愛の道
2/22　仕事という召し出し－教会と社会に寄与して働く
2/29　人間の苦悩－悪とは何のためか
3/7　死－その実現と克服
3/8-9　●黙想会
3/14　人生の完成－神の内に生きる
3/21　○休み
3/23　復活祭。感謝のミサ（14時、上智大学内クルトゥルハイム2階）
3/28　聖母マリア－信じる者の原型

リーゼンフーバー神父　キリスト教理解講座　2007～2008年

日時　第1・3・5火曜日　18時45分～20時30分
場所　聖イグナチオ教会（四ツ谷駅前）信徒会館3階アルペホール　電話03-3263-4584



12/1-2　●黙想会
12/4　家庭と独身生活――与えられた道の発見と深化
12/15　クリスマスのミサとパーティ
（17時、教会信徒会館ヨセフホール）（予定）
12/18　仕事と余暇――能力の活性化と人への奉仕
12/23　ミサ（14時、上智大学内クルトゥルハイム2階）
1/15　困難と苦しみ――その受け入れと克服
1/29　［信仰生活］　教会生活への参加――救いのしるしと典礼の意味
2/5　秘跡の恵み――ミサと告解
2/19　祈りの本質と諸形態――神との個人的な関わり
3/4　深遠な神秘への接近――黙想の意味と仕方
3/8-9　●黙想会
3/18　世界に開かれた霊性――活動における観想
3/23　復活祭。感謝のミサ（14時、上智大学内クルトゥルハイム2階）

坐禅会

月曜日　：17時20分～20時10分
木曜日　：18時～20時30分　　（祝日を除く）
場　所　：上智大学内クルトゥルハイム１階正面左の部屋
３回坐り、間に講話があります。
初心者も歓迎です。遅刻も不定期の参加も可。

接　心　2007年度

関東

4月27日(金)20時30分～5月4日(金)13時 了
6月22日(金)20時30分～24日(日)13時　了
8月9日(木)20時30分～16日(木)7時30分 了
10月30日(火)20時30分～11月4日(日)13時 了
秋川神冥窟
1泊2400円程度

2008年2月23日(土)8時30分～24日(日)15時30分上石神井、5600円

指導と問い合わせ先:
クラウス・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部教授)
〒102-8571 千代田区紀尾井町７－１上智大学 S.J.ハウス
電話 03-3238-5124(直通)5111(伝言)、FAX 03-3238-5056

「会社帰りの黙想（メディテーション）」 ―あわただしい毎日に平安のオアシスを

月２回、聖イグナチオ教会では黙想の場が開かれます。

リーゼンフーバー神父により、黙想のさまざまな仕方が紹介され、参加者一人ひとりが沈黙のうちに聖書のことばをもとにし、自己を探り静かに考え、祈ることが出来ます。始めと終わりにオルガン演奏もあります。

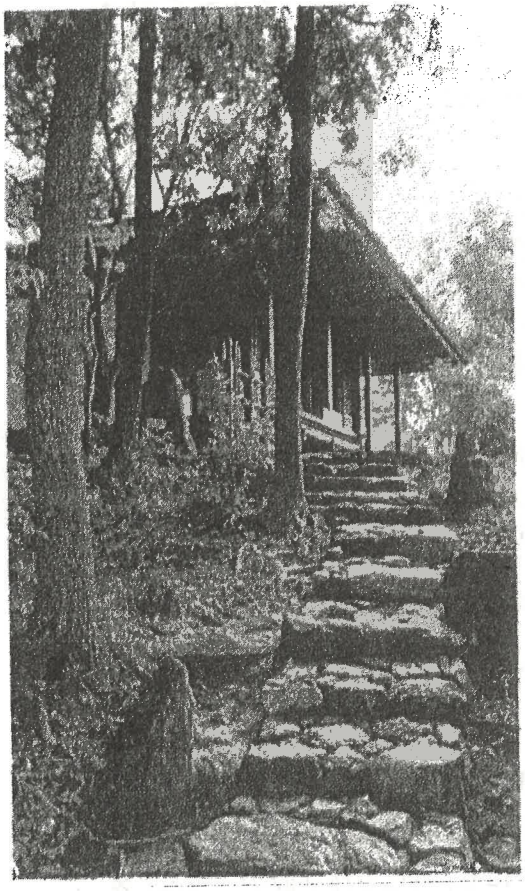
信仰・宗派を問わず、毎日の忙しさから開放され、夕べのひとときに心を深めたい方、どなたも歓迎です。随時参加、遅刻可、参加は無料です。初めて黙想なさる方も、お気軽にいらしてください。

日　時　　毎月第２・第４火曜日　１８：４５～２０：００
※12月25日（火）クリスマス・メディテーション（予定）

場　所　　聖イグナチオ教会マリア聖堂（中聖堂）
TEL　03－3263－4584

真命山

諸宗教対話・霊性交流センター



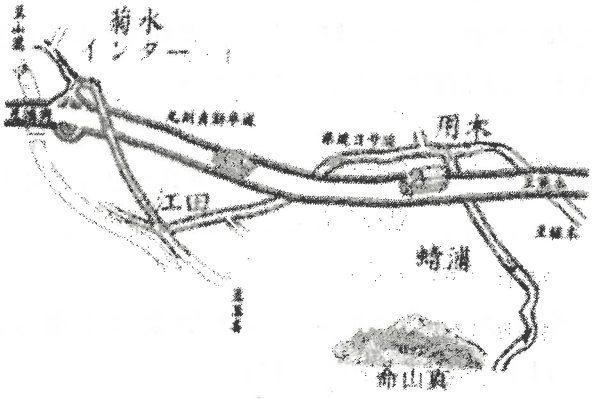
真命山の霊性

自然　神はすべてを作り
人の手に委ねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで　**祈り**

静けさ　沈黙の中に神の
言葉を聞こう

信仰体験を
分かつ　**交わり**



真命山

2007年度行事のご案内

祈りの集い（午前10時～午後3時）

年間テーマ「聖ダミアノの十字架のもとで祈る」

了　1月11日（木）聖ダミアノの十字架のもとで祈った聖フランチスコ

了　2月　8日（木）十字架に釘づけられたキリストの体

了　3月　8日（木）キリストの受難と死

了　4月12日（木）　死に勝たれたキリストの姿

了　5月10日（木）イエス様の十字架のもとに立っておられるマリア様

了　6月14日（木）十字架につけられたキリストの御顔

了　7月12日（木）　〃　（続き）

了　9月13日（木）三位一体の栄光を表す十字架

了　10月11日（木）十字架につけられたキリストを囲んでいる人々

了　11月　8日（木）十字架を担ってキリストに従う

12月13日（木）十字架と馬小屋

指導者：真命山スタッフ

フランコ・ソットコルノラ神父　（院長）

シスター　マリア・デ・ジョルジ

※個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。（要予約）

申し込み先
〒 865-0133
熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7
真命山諸宗教対話・霊性交流センター
☎ 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186
e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

ノートルダム教育修道女会　唐崎修道院

◎ 所 在 地：　〒520-0106　滋賀県 大津市 唐崎　1丁目　3－1
Tel：　077-579-7580
Fax：　077-579-3804
E-メール：　karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交　通：　JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約13分

◎ 日　程：

A.　8日間の個人指導による黙想

① 2007年12月27日（木）～ 2008年1月4日（金）
② 2008年　7月22日（火）～ 7月30日（水）
③　8月16日（土）～ 8月24日（日）
④　9月1日（月）～ 9月9日（火）
⑤　10月18日(土)　～10月26日(日)

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

B.　祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

⑥ 2008年1月18日（金）～ 1月20日（日）
⑦　2月22日（金）～ 2月24日（日）
⑧　4月11日（金）～ 4月13日（日）
⑨　5月 9日（金）～ 5月11日（日）
⑩　6月27日(金)　～　6月29日(日)
⑪　9月 5日（金）　～ 9月7日（日）
⑫　10月3日(金)　～　10月5日（日）
⑬　10月10日(金)　～ 10月12日（日）
⑭　10月24日（金）～ 10月26日（日）
⑮　11月 7日(金)　～　11月9日（日）

他の黙想会が行われている場合があります。

C. 自己発見から神へ Ⅰ 【講話と実習】

⑯ 2008年2月22日（金）～ 2月29日（金）

⑰ 10月 1日（水）～ 10月8日（水）

この期間、個人黙想をなさりたい方は、ご相談ください。

D. 上記の日程以外の日に、個人で黙想をなさりたい方は、
問い合わせてください。

◎ 対 象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

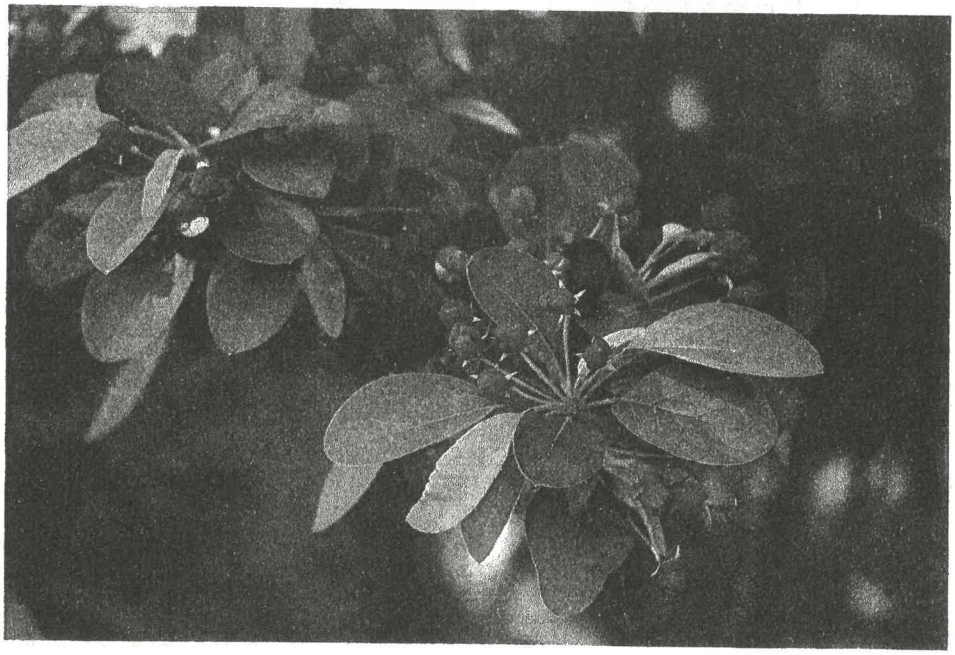
◎ 霊的同伴者： ﾄﾆｰ・ﾌﾞﾛﾄﾞﾆｬｯｸ（ﾒﾘﾉｰﾙ宣教師） 安井 昌子（ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ教育修道女）
菊池 陽子（ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ教育修道女） 松本 佳子（ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ教育修道女）

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」安井昌子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 但し、それ以前に
満室になった場合は、次の機会にお願いすることがあります。

◎ その他： 受付(ﾁｪｯｸ・ｲﾝ)は、いずれの場合も、初日の15時から16時45分まで。
問い合わせは、 電 話 または、E-ﾒｰﾙを ご利用ください。

祈りの集いのご案内



1日黙想会

―イエスの息づかい―

講　話　：　具　正謨師(イエズス会)
日　時　：　2008年1月13日(日)　10:00～4:00
対　象　：　20代30代の未婚女性
参加費　：　1000円　申し込み：1月12日(土)まで

問い合わせ・申し込み

〒182-0034　東京都調布市下石原３－５５－１
コングレガシオン・ド・ノートルダム修道院(担当：Sr.山本・Sr.峰・Sr.池田)
京王線調布駅下車徒歩13分(鶴川街道沿いマルガリタ幼稚園隣)
TEL：0424-82-2012　FAX：0424-82-2163
E-mail：prayer3551cnd@hotmail.com　URL：www.cnd-m.com

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。
カルメルの霊性を、より深めたい方のグループと、
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2007年12月8日(土)

— 愛の炎　十字架の聖ヨハネ —

（幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師帰天４０周年にあたって）

講話　　伊従信子 ・ 片山はるひ

午後２時より　講話・祈り・分かち合い
午後５時半　　ミサ（参加自由です）
参加費　　２００円

お申し込み・問い合わせ
ノートルダム ・ ド ・ ヴィ
〒177-0044　練馬区上石神井４－３２－３５
TEL(03)3594-2247　FAX(03)3594-2254
e-mail　jndv-jp@r2.dion.ne.jp

カルメル会の霊性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ（いのちの聖母会）は、
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉献を通して、
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

新刊 刊行！

第三巻　日本の神学を求めて

《好評既刊中》

第一巻　慈悲と隣人愛

第七巻　カルメルの霊性

奥村一郎選集

全9巻

オリエンス宗教研究所

定価各2,100円（本体2,000円）

四六判・上製・平均240頁

2007年3月刊行開始

深い信仰と豊かな霊性、そして透徹した知性が織り成す奥村神学の全貌。

祈りと思索の日々はときに私を新たな地平へと導く。カトリック修道者となってなお続く神との関わりや宗教対話の積み重ねが、やがて「関係の神学」として結実したことはその一つである。自己形成や修徳主義を基軸とする「個の霊性」の行き詰まりの中で、福音の原点である相互愛に基づく「関係の霊性」は日本文化とキリスト教など、その後の私の問題関心を深めてくれた。……著者による「刊行にあたって」より

奥村一郎（Okumura Ichiro）●カルメル会司祭

1923年生まれ。旧制高校時代より『正法眼蔵』に親しみ、中川宋淵老師に師事する。東京大学法学部、同大学文学部卒業後、カルメル会入会のため渡仏。帰国後は京都ノートルダム女子大学教授、聖母女学院短期大学学長、教皇庁諸宗教対話評議会顧問などを歴任。

奥村一郎選集 全9巻の構成

第1巻　慈悲と隣人愛
〈解説〉西村惠信

第2巻　多文化に生きる宗教
〈解説〉ヤン・ヴァンヒラフト

第3巻　日本の神学を求めて
〈解説〉小野寺功

第4巻　日本語とキリスト教
〈解説〉河部俊哉

第5巻　現代人と宗教
〈解説〉移岡資雄

第6巻　永遠のいのち
〈解説〉八木誠一

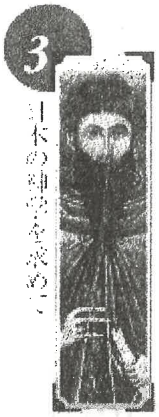
第7巻　カルメルの霊性
〈解説〉高岡泰子

第8巻　神に向かう〈祈り〉
〈解説〉高橋重幸

第9巻　奉献の道
〈解説〉宮本久雄

オリエンス宗教研究所、
キリスト教書店で発売中。

上野毛教会、
聖テレジア修道院（黙想）でも
お求めできます。



奥村一郎選集

新刊刊行

第三巻　日本の神学を求めて

《日本の神学・・根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」／新しい掟》

解説；小野寺　功

９月刊行予定

第六巻　永遠の命　　解説；八木誠一

《嬰児復帰／人間の栄光と悲惨／死を見つめる／十字架の秘義／人間と世界と神》

１１月刊行予定

第四巻　日本語とキリスト教　　解説；阿部仲麻呂

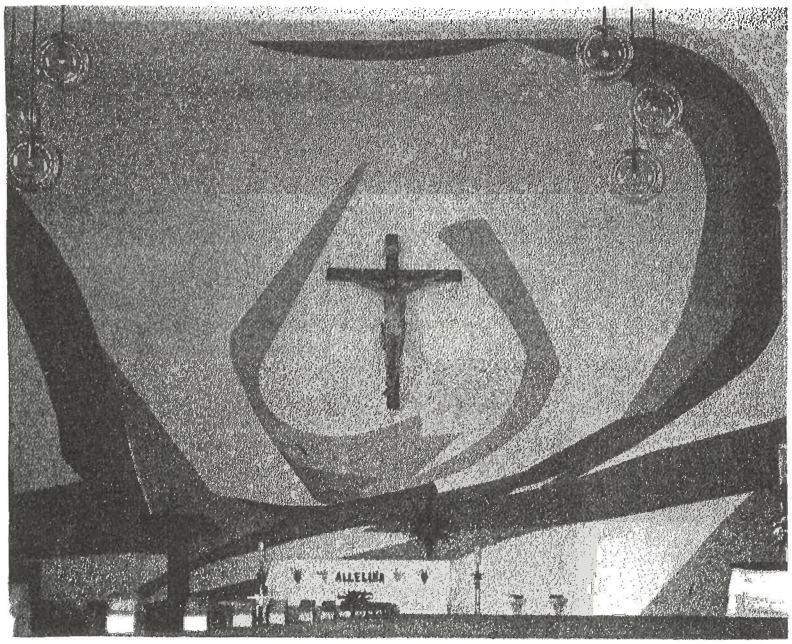
《日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ／聖書と翻訳》

新刊紹介

谷口正子著

仏教とキリスト教の中の『人間』

『歎異抄』・宮澤賢治・石牟礼道子ほか



（ポール藤野の聖堂壁画）

＊　**宗教と詩と世界経験が「人間」へと収斂していった。**

現代世界における人類破壊の流れに抗しようとする著者谷口正子さんの切なる祈りがこめられている。　（京都大学名誉教授）上田閑照

＊　**仏教かキリスト教かの短絡的な二者択一でない普遍的な地平**

を「人間」という事実から探ろうとする、真摯な魂の軌跡。第二ヴァチカン公会議の精神とも符合する。　（跣足カルメル会上野毛修道院院長）九里　彰

国文社　定価（本体 2400 円＋税）

投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをＢ５で２枚前後に簡単にまとめ、送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われます。

》投稿規程《

＊ 締切り：原則的に毎月１０まで

＊ 原稿サイズ：Ｂ５　左右の余白２０ｍｍ

＊ 原稿はできる限り、ワープロかパソコンでお願いします。

＊ E-mail での投稿は、添付ファイルで、tokyo@carmel-monastery.jp 宛にお願いいたします。

＊ 「心の泉」のコーナーについては小題をつけて。

＊ 「諸所の企画」のコーナーについては、

① 主催するグループ名もしくは個人名を明記。

② 活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。

③ 月間、あるいは年間の具体的計画。

④ 連絡先等。

＊ 寄稿連絡は、九里（くのり）　彰神父宛にお願いいたします。

〒158－0093　世田谷区上野毛２－14－25　カルメル会修道院

Tel(03)3704－2171　Fax(03)3704－1764

「カルメル霊性センター」のホームページ

YAHOO で「カルメル霊性センター」を検索してください！

ホームページのアドレスは以下の通りです。

http://www4.ocn.ne.jp./~carmel

『霊性センターニュース』ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×２２０円を現金で送ってください。（これは郵送料です。）

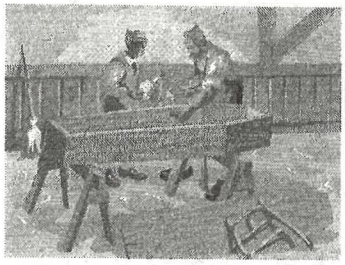
〒158－0093　東京都世田谷区上野毛 2－14－25　カルメル会上野毛修道院
「霊性センターニュース事務局」

「上野毛霊性センター」への献金のお願い

なお「霊性センターニュース」は現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等の仕事しております。ご希望の方へ無料で配付しておりますが、コピー代、紙代、印刷代等、諸経費はすべてカルメル修道会が負担しております。読者のみなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

＊　献金される方は、下記の口座へお振込みください。
　郵便番号口座：００１１０－４－２９７２５０
　加入者名：カルメル霊性センターニュース
　通信欄に「霊性センターニュースへの献金」とご記入ください。

＊　なお上野毛教会聖堂の祭壇左側の献金口や、信徒会館の「カルメル図書コーナー」の献金口に、直接、献金してくださっても結構です。献金袋は用意されております。



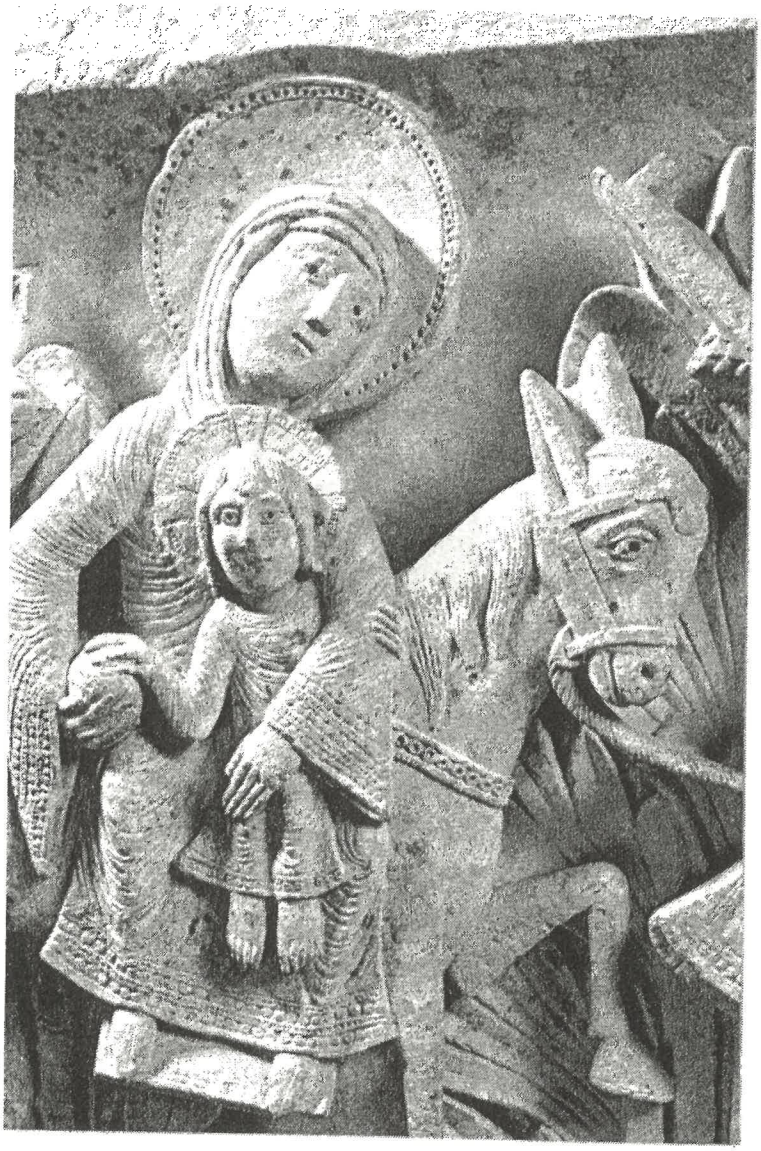
編集後記

先日、大学時代の恩師の葬儀に参列した。最近いつも思うことは、私も確実に葬られる側に回るということである。お棺の中の自分の姿を想像しても仕方のないことだが、恩師は長い闘病生活の末、骨と皮になっておられた。３年前、私のすぐ上の兄がくも膜下出血で倒れたが、その翌日に逝ったため、お棺の中の兄は、当然のことながら、生前の時そのまま、まるまると太っていた。葬儀屋さんも、お棺を運ぶのに苦労したようである。

いずれにせよ、私たちも皆、いつかこの世を去らねばならない。「人生五十年、下天のうちをくらぶれば夢幻の如くなり。一度生を享け、滅せぬもののあるべきか」と『敦盛』を舞った織田信長は、５０歳ならぬ４７歳でこの世を去った。「人生はせいぜい二時間ぐらいのもので、その後の報いはこの上もなく大きいのです」とは、アヴィラの聖テレジアの言葉である。命を長らえることに汲々とするのではなく、キリストのため、福音のため、与えられた命をいさぎよく捧げたいものである。

その日、その時は、だれも知らない。天使たちも子も知らない。父だけがご存じである。気をつけて、目を覚ましていなさい。その時がいつなのか、あなたがたには分からないからである。

（P. 九里）



DECOR
REGINA
CARMELI